

Sterling B2B Integrator



メールボックス

バージョン 5.2

Sterling B2B Integrator



メールボックス

バージョン 5.2

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、47 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

著作権

本書は、Sterling B2B Integrator のバージョン 5 リリース 2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright IBM Corporation 2000, 2015.

目次

メールボックス	1	メッセージのアーカイブ	30
メールボックスの使用にあたって	1	メッセージのリストア	30
Mailbox のクイック・ツアー	1	ビジネス・プロセスとの関連の検索	31
Mailbox のシステム・コンポーネント	2	リストアしたメッセージの監査	32
アプリケーションとのメールボックスの統合	4	EDIINT アクティビティのモニター	32
Mailbox とサービスの統合	4	デッド・レター・メールボックスの内容と状況の表示	33
Mailbox サービス	5	Mailbox を使用するように AS2 取引パートナーを構成	34
メールボックスに関するルーティング・ルール	8	システム障害発生後の AS2 メールボックスの問題のトラブルシューティング	35
メールボックスの管理	13	システム障害発生後の AS2 メールボックス・ファイル・ルーティング・ステータスの確認	36
メールボックスの編成	13	メールボックスの削除	37
メールボックスの作成および権限の割り当て	16	Mailbox Browser Interface (MBI)	38
サブメールボックスの作成およびアクセス権の割り当て	17	Mailbox Browser Interface の構成	38
メールボックスに対するアクセス権	18	取引パートナーの MBI への接続	39
メールボックスの構成の編集	21	MBI でのパスワードの変更	41
メールボックスのアクセス権の割り当て	22	MBI でのアクセス権の保護	41
ユーザーの Mailbox グループへの割り当て	23	メールボックスでのメッセージの検索	41
エクスポートしたメールボックス・ファイルの編集	24	メールボックスへのメッセージの送信	43
仮想ルートの作成	24	抽出なしでのメールボックスからのメッセージの表示	44
仮想ルートの編集	25	メールボックスからのメッセージの抽出	45
メッセージの検索	26		
テキストでのメッセージ名の表示	27		
重複メッセージの抑止	27		
/DeadLetter での複製メッセージの許可	28		
メッセージの抽出性の更新	29		
自動ルーティングのためのメッセージの再送信	30		
		特記事項	47

メールボックス

メールボックスは、特定のユーザーおよびアプリケーションのみがアクセスできる文書リポジトリを提供します。後で処理するためにメッセージと文書を保管する必要がある場合にメールボックスを使用します。

以下に例を示します。

- 内部システムと外部取引パートナーの間で受け渡されるデータをステージングする場合
- 取引パートナーのシステムが使用できないときにデータを内部生成した場合
- 処理ウィンドウの外部の取引パートナーから要求を受信した場合処理ウィンドウ(時間フレーム)は、定期保守などのシステム制約に従うために、またはビジネス制約のために作成されます。例えば、支払いの送信を可能な限り先の期日まで遅らせることが望ましい場合があります。

ステージングとスケジューリングの定義、操作、管理、および制御は、メールボックスで一元化されます。

メールボックスの使用にあたって

Mailbox のクイック・ツアー

Mailbox は、ストア・アンド・フォワード通信インフラストラクチャーを持つセキュアなビジネス文書リポジトリです。Mailbox は、B2B 電子商取引コミュニティを容易に構築するために必要な機能を提供します。また、Mailbox では、取引パートナーは Mailbox Browser Interface (MBI) と呼ばれるブラウザ・インターフェースを使用できます。Mailbox を電子商取引コミュニティにデプロイする際に特別なソフトウェアは必要ありません。MBI はセキュアで、使用が簡単であり、特別なユーザー研修は必要ありません。

Mailbox は、ほとんどすべての通信または B2B プロトコル・サービス (EDIINT AS1、SMTP、HTTP など) で使用できますが、便宜上、AS2、EDIINT サービス、および HTTP/S 通信アダプターと強固に統合されています。Mailbox を使用して内部処理用に文書をステージングするようシステムを構成することができる一方、AS2 プロトコルを使用してセキュアなインターネット・ベースの文書移送が可能になります。この機能は、AS2 を使用するファイル・システム・アダプターの代替としてスケーラビリティと機能性を実現します。

Mailbox では、ルーティング・ルールを使用した、ビジネス文書の自動処理、スケジュールされた処理、および手動処理がサポートされます。ルーティング・ルールは、文書ルーティング制御のための、堅牢で使用が容易なメカニズムを提供します。また、Mailbox は、ビジネス・プロセス、文書変換、B2B プロトコル、およびバックエンド・システム統合と簡単に組み合わせることができます。

Mailbox に保管されたビジネス文書はメッセージと呼ばれ、これらの文書には以下のようないずれの形式のビジネス・コンテンツでも格納できます。バイナリー、

EDI、またはXML。各メッセージに、メールボックスからメッセージを抽出するためのルールを指定する抽出ポリシーが割り当てられます。例えば、メッセージをメールボックスに追加した場合、メッセージをすぐに処理することも、スケジュールされた時間に処理することもできます。

Mailbox は、階層型で、OS プラットフォームに依存しないビジネス文書リポジトリを提供します。これによって、ファイル・システムの使用に勝るストレージ、編成、および管理を実現できます。このリポジトリには、相対メールボックス・パス (仮想ルート) やデッド・レター・メールボックスなどのさまざまな機能が備わっています。このリポジトリは、効率的な文書ストレージも提供します。例えば、同一メッセージが含まれる複数のメールボックスで、メッセージの 1 つのコピーを共有できます。

管理ユーザー・インターフェースを使用すると、既存のメールボックスとルーティング・ルールを簡単に管理できます。

Mailbox のシステム・コンポーネント

Mailbox のシステム・コンポーネントと機能は、以下のとおりです。

コンポーネント	説明
メールボックス	ビジネス文書のストレージ域で、管理と理解が容易な管理階層を提供します。システム・ユーザーは各自の文書にアクセスでき、管理者はすべてのメールボックスにわたって、文書を編成したり管理したりできます。メールボックスは階層を形成します。階層のトップをルート・メールボックスと呼び、スラッシュ (/) で表します。メールボックスではサブメールボックスをサポートできます。この編成上の概念をメールボックス階層といいます。
デッド・レター・メールボックス (Dead Letter Mailbox)	特定のメールボックスに追加できないメッセージを保管します。このメールボックスの主な役割は、管理者が問題を修正するまでの一時データ・ストレージを提供することです。
メッセージ	メールボックス内に存在する文書です。メッセージは、名前とタイム・スタンプが付けられて、いずれかのメールボックスに割り当てられます。メールボックスは、メッセージの追加、抽出、照会、および削除の機能を提供するサービスを使用するビジネス・プロセスの作用を受けます。
Mailbox アクセス制御	これを使用するとシステム管理者は、メールボックスの特権をグループおよびユーザーに割り当てることができます。特定のメールボックスの適切なアクセス権を持つユーザーは、そのメールボックスについて (Mailbox Browser Interface を使用して) メッセージの表示、追加、削除、および抽出を行うことができ、そのメールボックスに作用するビジネス・プロセスを実行することができます。

コンポーネント	説明
グローバル・アクセス権の設定 (Global Permission Settings)	<p>デフォルトでは、Mailbox 管理者には、すべてのメールボックスに対して操作を実行できるグローバル特権があります。このようなグローバル特権として、Mailbox グローバル削除 (Mailbox Global Delete) アクセス権および Mailbox グローバル照会 (Mailbox Global Query) アクセス権があります。例えば、Mailbox 管理者は、Mailbox グローバル削除 (Global Mailbox Delete) アクセス権があるので、メールボックスを削除できます。</p> <p>必要に応じて、グローバル・アクセス権を他のユーザーやグループに付与できます。</p>
Mailbox 仮想ルート (Mailbox Virtual Roots)	<p>取引パートナーに関連付けられているメールボックスです。そのユーザーによって参照されるメールボックスはすべて、そのユーザーの仮想ルートと相対的に評価されます。例えば、ユーザーの仮想ルートが /Customers/Central/Dallas Hardware の場合に、そのユーザーがメールボックス /Inbound にメッセージを追加するアクションを実行する場合、そのアクションで指定される実際のメールボックスは、/Customers/Central/Dallas Hardware/Inbound になります。仮想ルートが定義されていると、管理者が取引パートナーの仮想ルートを更新する限り、階層に変更を加えたときにその取引パートナーに通知する必要がありません。</p>
Mailbox Browser Interface (MBI)	<p>これを使用するとインターネット・ユーザーは、標準の Web ブラウザーから自分のメールボックスにアクセスできます。ユーザーは、アクセス権を持つメールボックスに対して、メッセージの送信、メッセージの抽出、およびメッセージの検索を実行できます。MBI を使用すると、ユーザーは、自分のアカウントのパスワードを変更することもできます。</p> <p>Mailbox Browser Interface は、1 つの Web システムであるため、Web ブラウザーのみが必要です。専用のクライアント・ソフトウェアは必要ありません。</p>
予約バッチ処理 (Scheduled Batch Processing)	<p>文書は、内部システムと外部取引パートナーから収集されます。すべての文書が、1 日の終わりや週の終わりなど、スケジュールどおりにまとめて処理されます。例えば、銀行業界の自動クリアリングハウス (ACH) 処理では、トランザクションが含まれるメッセージは、1 日の間に受信され、1 つ以上のメールボックスに配置されます。1 日の終わりに、すべてのトランザクションが処理されます。同じ銀行内のトランザクションは内部処理されます。他銀行とのトランザクションは、処理のために送信されます。</p>
非同期文書処理 (Asynchronous Document Processing)	<p>ハブは、取引パートナーに受信メールボックスを提供することができます。取引パートナーは、EDI トランザクションが含まれる文書はそのメールボックスに送信でき、その文書はそのメールボックスで処理されます。各送信が 1 回だけ処理されます。例えば、ある電機供給業者は、購入注文を受けてすぐにその注文を処理したいと思います。その電機供給業者は、取引パートナーに、メールボックスに購入注文を送信するよう指示します。注文を受信すると、ビジネス・プロセスがメールボックスから注文を抽出し、注文を処理するために、バックエンド・システムにその注文を渡します。</p>

コンポーネント	説明
文書の公開	<p>製品カタログなどの文書をメールボックスを使用して公開できます。権限がある取引パートナーは、ブラウザ・ベースのセキュア・インターフェースを使用して文書を取り出します。一定期間後、文書の有効期限が切れて、文書を取り出すことはできなくなります。以下のシナリオは、メールボックスに文書を公開する方法を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェア供給業者が、取引パートナーに対して、販売用の価格リストを公開します。ハードウェア供給業者は価格リストをメールボックスに配置して、取引パートナーにそのメールボックスへのアクセス権を付与します。販売終了までその価格リストを抽出（ダウンロード）することができます。 保険会社が、過去 1 年間にクライアントに対して処理したすべての請求についての文書を公開します。保険会社は、個々のクライアントのメールボックスに請求詳細を追加して、クライアントが 1 年分の請求詳細を抽出することを許可します。
ファイルのコピー (File Copying)	Sterling Connect:Direct Server アダプターまたは FTP サーバー・アダプターを使用して、Mailbox に、または Mailbox からファイルをコピーできます。
ルーティング・ルール	メッセージがメールボックスに追加されたら、アクションを自動的に開始します。

アプリケーションとのメールボックスの統合

Mailbox とサービスの統合

グラフィカル・プロセス・モデラーを使用してビジネス・プロセス・モデルを設計することによって、あらゆるサービスまたはアダプターと Mailbox を統合できます。

また、Mailbox には、EDIINT AS2 プロトコルとのすぐに使用できる統合が備わっています。このサポートは、事前構築されている特別なビジネス・プロセス・モデルと AS2 セットアップ・ウィザードを通して提供されます。

FTP サーバー・アダプターは、Mailbox サブシステムと強固に統合されます。Sterling Connect:Direct Server アダプターを使用して、Mailbox にファイルをコピーしたり、Mailbox からファイルをコピーしたりできます。

ビジネス・プロセスへの Mailbox の統合

以下の方法で Mailbox をビジネス・プロセスと統合できます。

- ビジネス・プロセスから Mailbox サービスを呼び出す
- ルーティング・ルールを使用してビジネス・プロセスを指定する

統合の例

以下に、ビジネス・プロセスへの Mailbox の統合の例を示します。

統合タイプ	例
イベント・ドリブン統合	Mailbox をイベント・ドリブン・ニア・リアルタイム統合に使用できます。特定のメールボックスでメッセージ名パターンを検索する自動ルーティング・ルールを設定します。ルーティング・ルールが評価されるとき、指定されたメールボックス内のメッセージが突き合わされ、指定されたビジネス・プロセスがトリガーされます。このビジネス・プロセスでは、メッセージのコンテンツにアクセスして、バックエンド・システム処理や関連パーティーへの通知などの自動機能を実行できます。イベント・ドリブン処理は、ビジネス要件でメールボックスで受信する文書を受信後できるだけ迅速に処理する必要がある場合に有用です。
タイム・ドリブン統合	Mailbox をビジネス・プロセスとのタイム・ドリブン統合に使用できます。これを行うには、時間スケジュールに従って実行され、Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスを使用して特定のメッセージ基準に対して Mailbox を検索するビジネス・プロセスをセットアップします。一致するメッセージが見つかったら、ビジネス・プロセスの次のステップが開始されます。ビジネス・プロセスでは、一致したメッセージについて、それを抽出して別のシステムに渡すことや、メッセージが使用可能であることをユーザーに通知することなど、任意の処理を実行できます。 Mailbox のこのシステムは、月末決済などのように、スケジュールされている処理が重要な場合に有用です。Mailbox で受信したメッセージは、次にスケジュールされているビジネス・プロセスの実行時に処理されます。
文書の公開	Mailbox を使用して、指定した期間だけ文書を公開することができます。文書をメールボックスに追加するビジネス・プロセスを作成し、文書の有効期限日を指定した抽出ポリシー「抽出可能期限 (ExtractableUntil)」を設定します。文書を表示するすべてのユーザーにこのメールボックスに対するアクセス権を付与します。ユーザーは、指定された日付まで文書を抽出することができます。これの一般的なシステムとして、カタログの有効期限が切れるまで、顧客がカタログを閲覧できるようにする処理があります。

Mailbox サービス

Mailbox サービスでメッセージの追加、抽出、照会、削除ができます。

Mailbox 追加 (Mailbox Add) サービス

Mailbox 追加 (Mailbox Add) サービスを使用すると、メッセージを特定のメールボックスに追加できます。このサービスでは、メッセージ名、メッセージの追加先のメールボックス、および抽出ポリシーを指定できます。Mailbox 追加 (Mailbox Add) サービスでは、実行前にメールボックスを使用するためのユーザーのアクセス権が確認されます。このメールボックスの主な役割は、管理者が問題を修正するまでの一時データ・ストレージを提供することです。

メッセージがメールボックスに追加されるときに、3 つの抽出ポリシーのうちの 1 つがそのメッセージに割り当てられます。これらのポリシーによって、メッセージの抽出が許可されるタイミングが制御されます。次の表は、抽出ポリシーを示しています。

ポリシー	説明
限定された回数 の抽出 (Extract a limited number of times)	<p>カウントが指定され、文書が抽出されるたびにこのカウントが減っていきます。このポリシーを使用する 2 つの方法を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カウントが 1 の場合、メッセージはドロップボックスに配置される通常のレターのようなものです。このメッセージが 1 回抽出されると、もう抽出できなくなります。 • カウントが 2 以上の場合、メッセージは複数のユーザーが抽出できます。抽出が成功した後にカウントが 0 になると、だれもそのメッセージを抽出することはできなくなります。
将来の日付ま で抽出可能 (Extractable until some future date)	<p>指定の日付に達するまで抽出が可能で、その日付に達すると抽出できなくなります。このポリシーは、所定の日付に有効期限が切れるクーポンのようなものです。</p>
別途通知があ るまで抽出可 能 (または抽 出不可) (Extractable (or not) until further notice)	<p>管理者がポリシーを変更するまで、すべての抽出が有効または無効になります。</p>

Mailbox 抽出サービス

抽出とは、メールボックスからメッセージを読み取ることを意味し、通常は、ビジネス・プロセスの 1 次文書に読み取られます。ビジネス・プロセス内でのメッセージの抽出は、以下の 2 つのステップで構成されます。

1. Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスでは、アクセス権、可用性、および抽出性が検証されます。操作が許可されたら、データがビジネス・プロセスに提供されます。
2. ビジネス・プロセスがデータの処理を完了したら、Mailbox 抽出中止 (Mailbox Extract Abort) サービスまたは Mailbox 抽出コミット (Mailbox Extract Commit) サービスの呼び出しによって抽出が完了されます。Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスの後にエラーが発生すると、Mailbox 抽出中止 (Mailbox Extract Abort) サービスが呼び出され、Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスが一度も実行されなかったかのように抽出可能カウントが元の値に戻されます。エラーが発生しなかった場合は、Mailbox 抽出コミット (Mailbox Extract Commit) サービスが呼び出され、正式に抽出が完了されます。

ビジネス・プロセスでこのエラー処理が必要ない場合は、Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスにパラメーターを設定することによって、Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスと Mailbox 抽出コミット (Mailbox Extract Commit) サービスを 1 つのサービスにまとめることができます。

ビジネス・プロセスで Mailbox 抽出開始 (Mailbox Extract Begin) サービスが実行される場合、メッセージ「保留」テーブルによって、特定のビジネス・プロセスによるメッセージの処理がトラッキングされます。メッセージへのアクセスは、抽出ポリシーによって制御されます。

ユーザーがメッセージの抽出を開始できても、文書を処理できないと判断することがあります。例えば、ビジネス・プロセスがメッセージを抽出し、それをネットワーク経由で取引パートナーに送信する場合があります。この転送が失敗すると、抽出は成功しません (部数が制限されているメッセージのコピーの 1 つが抽出されないようにするため)。

Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービス

Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスを使用すると、類似したメッセージのグループを選択できます。例えば、ユーザーは Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスを使用して、2 つの日付の間に追加されたメッセージを検索できます。ユーザーには、メールボックスを照会するためのアクセス権が必要です。

Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスでは、以下のような複数のパラメーターがサポートされます。

- メールボックス・パス
- メッセージ名パターン (Message name pattern)
- メッセージ ID
- ユーザー ID
- 開始日時
- 終了日時
- 抽出可能メッセージ (Messages extractable)
- 順序付け (Order by)
- 昇順/降順 (Ascending/descending)

Mailbox 削除 (Mailbox Delete) サービス

Mailbox 削除 (Mailbox Delete) サービスを使用すると、期限切れまたは廃止のメッセージを削除できます。このサービスでは、Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスのものと同様のパラメーター・リストがサポートされます。ユーザーは、各メールボックスに対するアクセス権、または所有者によるあらゆるメールボックスからのメッセージの削除を許可するメールボックスのグローバル削除アクセス権 (delete.permission) が必要です。

Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービス

Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスを使用すると、1 つまたは複数のメールボックスを、関連付けられているサブメールボックス、メッセージ、仮想ルート、ルーティング・ルール、およびアクセス権とともに削除することができます。このサービスは、メールボックスとそれに関連付けられているすべてのものを完全にかつ恒久的に削除するよう設計されています。Mailbox 削除 (Mailbox Delete) サービスは、Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスとは、メールボックス内のメッセージのみを削除する点において異なります。

このタスクについて

システム・インターフェースを使用して対話式にメールボックスを削除することも、ビジネス・プロセスで Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスを使用してビジネス・プロセスの決定点でメールボックスを削除することもできます。

メールボックスを対話式に削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」 > 「**メールボックス (Mailboxes)**」 > 「**構成 (Configuration)**」に進みます。
2. 「すべてをリスト (List ALL)」の横にある「**実行 (Go!)**」をクリックします。
3. 「削除」アイコンをクリックします。削除されたもののレポートを表示するオプションがあります。

Mailbox 予約削除 (Mailbox Scheduled Delete) サービス

Mailbox 予約削除 (Mailbox Scheduled Delete) サービスでは、以下で構成される基準を満たすメールボックス・メッセージを削除できます。

- メッセージ名パターン
- メールボックス
- 抽出性ステータス
- メッセージ経過時間

例えば、1 週間以上が経過したメッセージをすべて定期的に削除する Mailbox 予約削除 (Mailbox Scheduled Delete) サービスの構成を作成できます。

Mailbox 予約削除 (Mailbox Scheduled Delete) サービスは、指定した日時に 1 回だけ実行されるように構成することも、1 カ月に 1 回や 1 週間に 2 回などのように定期的に実行されるように構成することもできます。

メールボックスに関するルーティング・ルール

メッセージがメールボックスに追加されたときに自動的にアクションを開始するルーティング・ルールを作成できます。自動ルーティングによって、ルールが少なくとも 1 回は評価されるようになります。メッセージがメールボックスに追加されると、そのメールボックスに設定されているすべてのルールが自動的に評価されます。自動ルーティング・ルールが評価されたら、ルールで実行されるように構成されているビジネス・プロセスが開始します。ルールで、ビジネス・プロセスの完了が待機されることはありません。すべてのルーティング・ルールが (定義されているスケジュールに従って) 実行されたら、前回の自動ルーティング・ルール評価以降にメールボックスに追加されたメッセージが「ルーティングの必要あり」のテーブルから削除されます。そのテーブルから削除されたメッセージが、再度自動ルーティング対象になることはありません。

手動評価とスケジュールされた評価によって、評価されるルールのパターンを満たすメッセージがすべてルーティングされます。メールボックスに入っており、ルール・パターンに当てはまるメッセージは、ルールが評価されるたびにルーティングされます。

手動評価およびスケジュールされた評価によって、メッセージが少なくとも 1 回は配信されることが保証されるわけではありません。ルーティングは通常 1 回だけ発生しますが、システム障害が発生すると、ルーティングはシステム始動時には再開されません。システムを再始動した場合、開始されていたビジネス・プロセスが再始動可能か再開可能かによって、それらのビジネス・プロセスの再始動が必要なことがあります。

システムによってルーティング・ルールが評価された後、ルーティングされたメッセージは、ルーティング・ルールのビジネス・プロセスによって処理されることが保証されます。

ルーティング・ルールのパターンおよびアクション

ルーティング・ルールは、ルールを適用するタイミングを指定するパターンと実行されるアクションの 2 つの部分で構成されます。ルーティング・ルールには、メッセージ名の突き合わせに使用するストリング・パターンが含まれます。このストリングには、ワイルドカード文字を含めることができます。ルールの適用を特定のメールボックスに制限することができます。メッセージ名がルールのストリング・パターンに一致した場合、指定されたビジネス・プロセスの実行がルールによってトリガーされます。このプロセスでは、メッセージの抽出、バックエンド・システムとの統合、通知アクションなどのあらゆる処理を実行できます。例えば、メッセージがデッド・レター・メールボックスに着信したときは常に管理者に通知するビジネス・プロセスをルーティング・ルールによってトリガーできます。

ルーティング・ルール評価モード

ルーティング・ルール評価モードは、ルールが評価されるタイミングの定義に使用されます。ルーティング・ルールを定義するときに、評価モードを設定します。ルーティング・ルール評価モードは、自動と手動の 2 種類があります。

自動ルーティング・ルール評価は、Mailbox すべての自動ルール評価 (Mailbox Evaluate All Automatic Rules) サービスによって実行されます。これは、スケジュールされたサービスで、その頻度はアプリケーション・インターフェースを使用して制御されます。メッセージが自動評価の対象になるのは、メールボックスに追加されるときの 1 回だけです。

すべてのメッセージが常に、ルーティング・ルールの手動評価の対象です。ルーティング・ルールが手動で繰り返し評価される場合、1 つのメッセージが複数回ルーティングされることがあります。

ルーティング・ルールを手動評価するには、以下の 3 つの方法があります。

- Mailbox ルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate Routing Rule) サービスの構成を呼び出すことによって、ビジネス・プロセス内でルーティング・ルールを手動評価できます。
- Mailbox ルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate Routing Rule) サービスのスケジュールされた構成によって、ルーティング・ルールを手動評価できます。
- アプリケーション・インターフェースを使用して、ルーティング・ルールを対話式に手動評価できます。

評価頻度の調整

管理者は、サービスが呼び出されるたびに消費されるシステム・リソースのオーバーヘッドを軽減するために、メールボックスのルーティング・ルールが評価される頻度を少なくしたい場合があります。

このタスクについて

ルーティング・ルールの評価には、ルーティング・ルールで指定されているとおりに、データベース照会、およびその後のさまざまなビジネス・プロセスの開始が含まれます。管理者は、メッセージの適時のルーティングの必要性和ルーティング・プロセスのオーバーヘッドとのバランスを取ることができます。

注: 通常、頻度の調整には、自動ルーティング・ルールの評価のみが関係しており、ルーティング・ルールは関係していません。

評価の頻度を調整するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「デプロイメント (Deployment)」メニューの「スケジュール (Schedules)」を選択します。
2. Mailbox すべての自動ルール評価 (MailboxEvaluateAllAutomaticRules) スケジュールを検索して、「編集」アイコンをクリックします。
3. ルーティング・ルール評価の頻度を再定義します。

別の頻度でのルーティング・ルールの評価

このタスクについて

Mailbox すべての自動ルール評価 (Mailbox Evaluate All Automatic Rules) サービスとは異なる頻度で評価したいルーティング・ルールがある場合、Mailbox ルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate Routing Rule) サービスを使用して、ビジネス・プロセスでルーティング・ルールを評価できるようにすることが可能です。このサービスは、スケジュールに入れることができます。

構成可能な最小ルーティング間隔は、1 分です (アプリケーションのスケジューラーで決められているとおり)。

別の頻度でルーティング・ルールを評価するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 該当するルーティング・ルールを評価する Mailbox ルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate Routing Rules) サービスの構成を作成して、そのスケジュールを必要な頻度に設定します。スケジュールは、サービス定義のページから構成できます。
2. この Mailbox ルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate Routing Rules) サービスの構成をビジネス・プロセスに追加します。
3. 別の頻度で評価するルーティング・ルールを手動ルーティング・ルールとして指定すると、Mailbox すべての自動ルール評価 (Mailbox Evaluate All Automatic Rules) サービスで評価されることはなくなります。

ルーティング・ルールの作成

このタスクについて

ルーティング・ルールを評価するとき、Mailbox では、ルールに定義されているメールボックスで、ルールに定義されているパターンと一致するメッセージ名が検索されます。一致が見つかったら、ルーティング・ルールに指定されているビジネス・プロセスまたは契約に、ルーティング・ルールから通知が送信されます。ビジネス・プロセスは、定義されているとおりに、メッセージを抽出して処理するか、メッセージを抽出して処理のために他のシステムに渡すか、または他のシステムにメッセージを抽出して処理するよう通知します。

ルーティング・ルールが、手動で評価されるように設定されている場合は、ユーザーまたはビジネス・プロセスによって評価することができます。

ルーティング・ルールを作成するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「デプロイメント (Deployment)」メニューから、「メールボックス (Mailboxes)」および「ルーティング・ルール (Routing Rules)」を選択します。
2. 「作成 (Create)」セクションで「実行 (Go!)」をクリックします。
3. ルーティング・ルールに名前を指定します。この名前は、各ルーティング・ルールで固有である必要があります。これは、アプリケーションのその他の部分でのルーティング・ルールの識別に使用されます。
4. 「ルールの適用 (Rule Application)」ページで、次のいずれかの評価モードを選択します。
 - 手動評価 (Evaluate Manually) - ルールを手動で評価するか、またはスケジュールされたビジネス・プロセスを使用して評価する必要があります。
 - 自動評価 (Evaluate Automatically) - ルールは毎分評価されます。
5. 次のいずれかのアクション・タイプを選択します。
 - ビジネス・プロセス (Business Process) - ルールは一致が見つかったときにビジネス・プロセスに通知します。
 - 契約 (Contracts) - ルールは一致が見つかったときに、契約に関連付けられているビジネス・プロセスに通知します。
6. 「次へ (Next)」をクリックします。
7. 「ルール・パターン (Rule Pattern)」ページで矢印を使用して、「選択したメールボックス (Selected Mailboxes)」リストにメールボックスを追加します。「選択したメールボックス (Selected Mailboxes)」リスト内のすべてのグループが、ルーティング・ルールによって検索されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのグループが、「選択したメールボックス (Selected Mailboxes)」リストに追加されます。
8. 「メッセージ名パターン (Message Name Pattern)」を指定して、「次へ」をクリックします。これは、指定したメールボックスでルーティング・ルールが検索するメッセージ名またはパターンです。アスタリスクをワイルドカードとして使用できます。メールボックスとメッセージ名パターンのいずれかまたは両方を指定する必要があります。

9. 「ルール・アクション (Rule Action)」 ページで、関連付けられているビジネス・プロセス (またはフィルターに使用する名前) を選択して、「次へ」をクリックします。
10. 「ルールをユーザーとして実行 (Run Rule as User)」 ページで、ルールの実行時にルーティング・ルールに関連付けるユーザー ID を選択します。
11. 「確認」 ページで、パラメーターを確認し、「終了」をクリックします。
12. システムの更新が完了したら、「戻る (Return)」をクリックします。

ルーティング・ルールの編集

このタスクについて

1 つ以上のルーティング・ルール・パラメーターを変更するには、以下の手順を使用します。AS2 ウィザードによって作成されたルーティング・ルールがあります。これらのルールには、検索結果画面の「説明 (Description)」列に「AS2 ウィザードで自動作成されたルーティング・ルール (*Routing Rule created automatically by the AS2 Wizard*)」という句が含まれます。これらのシステム生成ルールを編集すると、取引パートナーとの通信が影響を受けます。

手順

1. 「デプロイメント (Deployment)」メニューから、「メールボックス (Mailboxes)」および「ルーティング・ルール (Routing Rules)」を選択します。
2. 以下のいずれかの方法で、編集対象のルーティング・ルールを選択します。
 - 「検索 (Search)」セクションの「メールボックス名で検索 (By Mailbox Name)」フィールドに、対象のルーティング・ルールに関連付けられているメールボックス ID を入力して、「実行 (Go!)」をクリックします。
 - 「リスト (List)」セクションで、ルーティング・ルール名の先頭文字を選択するか、すべてのルーティング・ルールのリストを表示するには「すべて (All)」を選択して、「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 編集するルーティング・ルールを特定して、「選択 (Select)」列の「編集 (edit)」アイコンをクリックします。

注意:

「説明 (Description)」列に「xxx に対して AS2 ウィザードで自動作成されたルーティング・ルール (*Routing Rule created automatically by the AS2 Wizard for xxx*)」という句が含まれるルールは、システム生成のルールです。これらのルールを編集すると、取引パートナーとの通信が影響を受けます。

4. 「ルールの適用 (Rule Application)」 ページで、次のいずれかの評価モードを選択します。
 - 手動評価 (Evaluate Manually) - ルールを手動で評価するか、またはスケジュールされたビジネス・プロセスを使用して評価する必要があります。
 - 自動評価 (Evaluate Automatically) - ルールは、Mailbox すべてのルーティング・ルール評価 (Mailbox Evaluate All Routing Rules) サービスで指定されている頻度で評価されます。
5. 次のいずれかのアクション・タイプを選択します。
 - ビジネス・プロセス (Business Process) - ルールは一致が見つかったときにビジネス・プロセスに通知します。

- 契約 (Contracts) - ルールは一致が見つかったときに、契約に関連付けられているビジネス・プロセスに通知します。
6. 「次へ (Next)」をクリックします。
 7. 「ルール・パターン (Rule Pattern)」 ページで矢印を使用して、「**選択したメールボックス (Selected Mailboxes)**」 リストにメールボックスを追加します。
「**選択したメールボックス (Selected Mailboxes)**」 リスト内のすべてのグループが、ルーティング・ルールによって検索されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのグループが、「**選択したメールボックス (Selected Mailboxes)**」 リストに追加されます。
 8. 「**メッセージ名パターン (Message Name Pattern)**」を指定します。これは、指定したメールボックスでルーティング・ルールが検索するメッセージ名またはパターンです。アスタリスクをワイルドカードとして使用できます。メールボックスとメッセージ名パターンのいずれかまたは両方を指定します。
 9. 「次へ (Next)」をクリックします。
 10. 「ルール・アクション (Rule Action)」 ページで、関連付けられているビジネス・プロセス (またはフィルターに使用する名前) を選択して、「次へ」をクリックします。
 11. 「ルールをユーザーとして実行 (Run Rule as User)」 ページで、ルールの実行時にルーティング・ルールに関連付けるユーザー ID を選択します。
 12. 「確認」 ページで、パラメーターを確認し、「終了」をクリックします。
 13. システムの更新が完了したら、「戻る (Return)」をクリックします。

ルーティング・ルールの手動評価

このタスクについて

ルーティング・ルールを手動評価するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」 > 「**ルーティング・ルール (Routing Rules)**」を選択します。
2. 「ルーティング・ルールの評価 (Evaluate Routing Rules)」セクションで「**実行 (Go!)**」をクリックします。
3. 「**選択可能なルール (Available Rules)**」リストから評価するルールを選択し、右矢印をクリックして、そのルールを「**評価の対象 (To Be Evaluated)**」リストに移動し、「次へ」をクリックします。
4. 「終了」をクリックします。

「システムの更新 (Update system)」ページが開き、評価報告書が表示されます。評価されたメッセージ ID を表示するには、評価報告書をクリックします。

メールボックスの管理

メールボックスの編成

Mailbox を設計する場合、ルーティング・ルールと Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスをメールボックスとの対話にどのように使用するかを検討する必要があります。

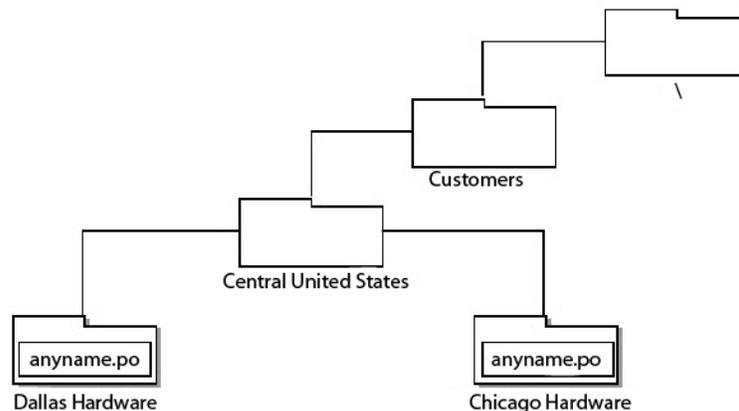
ます。ルーティング・ルールと Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスを使用すると、メールボックス・パス、メールボックス名、およびメッセージ名に基づいてメッセージを検索できます。以下の 2 つの例は、ルーティング・ルールと Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスがメールボックスの編成に関連するしくみを示しています。

例 1 - メッセージ名のサフィックス

メールボックス名であり、2 つの取引パートナーである Dallas Hardware および Chicago Hardware から Mailbox に購入注文が送信されます。ルーティング・ルールまたは Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスは、/Customers/Central United States/Dallas Hardware メールボックスと /Customers/Central United States/Chicago Hardware メールボックス内のメッセージを検索するようセットアップされています。サフィックス .po が付いているメッセージが検索されます。一致するメッセージが見つかり、ビジネス・プロセスに通知され、Dallas Hardware の購入注文が処理されます。

ルーティング・ルールが評価されるか、または Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスが実行されると、ビジネス・プロセスによって、Dallas Hardware メールボックスまたは Chicago Hardware メールボックス内でサフィックス .po が付いているメッセージが特定され、抽出され、処理されます。

以下の図は、ルーティング・ルールまたは Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスにメールボックス名とメッセージ名を使用するメールボックスの編成の例を表しています。



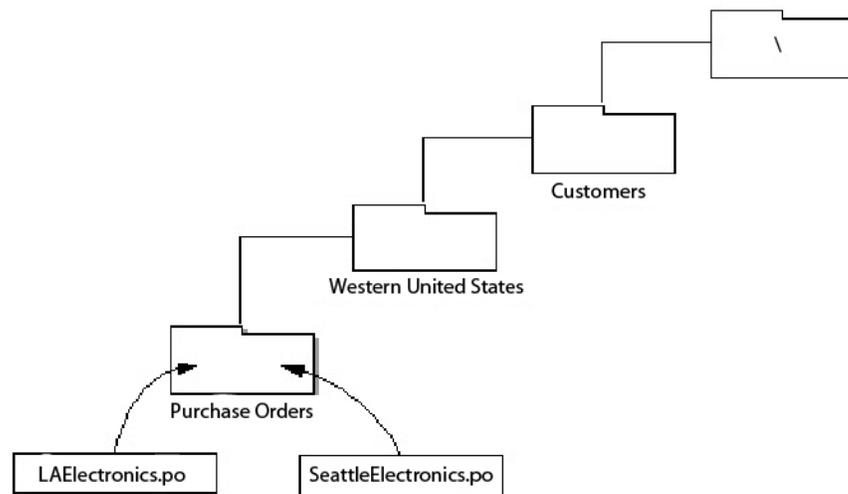
例 2 - メールボックス名、メッセージ名、メッセージ名のサフィックス

Seattle Electronics と LA Electronics の 2 つの取引パートナーから購入注文が送信されます。1 つのルーティング・ルールが、/Customers/Western United States/Purchase Orders メールボックス内のメッセージを検索するようセットアップされており、SeattleElectronics.po という名前のメッセージが検索されます。別のルーティング・ルールが、/Customers/WesternUnited States/Purchase Orders メールボッ

クス内のメッセージを検索するようセットアップされており、LAElectronics.po という名前のメッセージが検索されます。それぞれのルーティング・ルールからビジネス・プロセスに通知が送信されます。

これらのルーティング・ルールが評価されるときに、SeattleElectronics または LAElectronics の名前とサフィックス .po が付いたメッセージがあれば、ビジネス・プロセスに通知されます。

以下の図は、ルーティング・ルールにメールボックス名、メッセージ・ベース名、およびメッセージのサフィックスを使用するメールボックスの編成の例を表しています。



メールボックス名を使用した情報の編成

Mailbox の構造はネストされます。新規メールボックスを作成する場合、そのメールボックスを別のメールボックス内にネストする必要があります。最低限として、仮想ルート・メールボックス「/」が、メールボックス構造の構築の開始点となります。1 つの例として、「/」仮想ルート・メールボックス内に「Inbound」という名前のメールボックスを作り、それに特定の取引パートナー用のサブメールボックスを追加することになります。

```
/Inbound  
Company A  
Company B  
Company C
```

メールボックス名は、作成時にメールボックスに割り当てられる実際の名前です。この場合、メールボックス名は、Inbound、Company A、Company B、および Company C です。メールボックス名は、一般的な通信を目的とした場合に有用です。例えば、取引パートナーに必要な文書の送信先を伝える場合があります。

メールボックス名によって、取引パートナー名やメッセージ・フローの方向などの情報を識別することができます。2 つの例を次に示します。

- 取引パートナー Dallas Hardware からのメッセージを Dallas Hardware メールボックスに保管します。

- Dallas Hardware Incorporated から受信したメッセージを /Customers/Central United States/Dallas Hardware/Inbound という名前のメールボックスに保管し、Dallas Hardware Incorporated に送信したメッセージを /Customer/Central United States/Dallas Hardware/Outbound というメールボックスに保管します。

メールボックス・パスを使用した情報の編成

セキュリティーおよびプライバシー上の理由から、取引パートナーに Mailbox システムのネスト構造を知られたくない場合があります。前述の例では、Company A、Company B、および Company C にそれぞれ各自のメールボックスのみを認識してもらいたい場合があります。

メールボックス名だけでは、ビジネス・プロセスのアクティビティーでメールボックスに対して操作（メッセージの追加や抽出など）を実行するには十分ではありません。これらのアクティビティーでは、メールボックス・パスが必要です。メールボックス・パスは、所定のメールボックスの場所を指定するメールボックスとサブメールボックスのフル・シーケンスを表します。

前述の例で、Company A のメールボックス・パスは、次のとおりです。

/Inbound/Company A

取引パートナーが、自分たちのメールボックスのメールボックス・パスを知っておく必要はありません。ただし、メールボックスに対する操作の実行に使用するサービスには、メールボックス・パスが必要です。

メールボックスのパスによって、取引パートナーのカテゴリなどの情報を識別できます。例えば、米国中部の顧客用のメールボックスを /Customers/Central United States/Dallas Hardware などのように Central United States という名前のメールボックス内に組み込むことができます。

メッセージ名を使用した情報の編成

メッセージ名で、サフィックス、ベース名、またはプレフィックスを使用することによって、メッセージに関する情報を伝達することができます。以下に 3 つの例を示します。

- 購入注文であることを示すメッセージ名サフィックス (9912234.po など) を付けて購入注文を送信します。
- トランザクション ID が 9912234 であるメッセージの名前を 9912234.po とします。
- order-123456767.request と order-123456767.cancellation を注文処理の一部として扱い、invoice-234325677.receipt を送り状処理の一部として扱います。

メールボックスの作成および権限の割り当て このタスクについて

新規メールボックスを作成して、グループおよびユーザーにこのメールボックスを操作するアクセス権を割り当てるには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**構成 (Configuration)**」を選択します。
2. 「作成 (Create)」セクションで「**実行 (Go!)**」をクリックします。
3. 「メールボックス: 名前 (Mailbox: Name)」ページで、作成しているメールボックスを組み込む親メールボックスを選択します。「**フィルターに使用する名前 (Filter by Name)**」フィールドに名前の一部を入力して、「**フィルター (Filter)**」ボタンをクリックするとリストがフィルタリングされます。ルート・メールボックスは、スラッシュ (/) によって示されます。
4. 「**名前**」フィールドに、作成するメールボックスの名前を入力します。この名前は、アプリケーションでのメールボックスの識別に使用されます。
5. 「**説明**」フィールドに、メールボックスの簡単な説明を入力して、「**次へ**」をクリックします。このフィールドは、メールボックスの説明に使用されます。このフィールドは、システムの他のリソースには使用されません。(これは必須フィールドです。)
6. 「**グループの割り当て (Assign Groups)**」ページで、矢印を使用してグループを「**選択したグループ (Selected Groups)**」リストに追加し、「**次へ**」をクリックします。「**選択したグループ (Selected Groups)**」リストのすべてのグループにこのメールボックスへの権限が設定されます。最初の二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのグループが、「**選択したグループ (Selected Groups)**」リストに追加されます。「**フィルターに使用する名前 (Filter by Name)**」フィールドにグループ名の一部を入力して、「**フィルター (Filter)**」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。必須のグループはありません。グループは、「**アカウント (Accounts)**」メニューから追加できます。
7. 矢印を使用して、ユーザーを「**選択したユーザー (Selected Users)**」リストに追加し、「**次へ**」をクリックします。「**選択したユーザー (Selected Users)**」リストのすべてのユーザーにこのメールボックスへの権限が設定されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのユーザーが「**選択したユーザー (Selected Users)**」リストに追加されます。「**フィルターに使用する ID (Filter by ID)**」フィールドにユーザー名の一部を入力して、「**フィルター (Filter)**」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。必須のユーザーはありません。ユーザーは、「**アカウント (Accounts)**」メニューから追加できます。

サブメールボックスの作成およびアクセス権の割り当て このタスクについて

メールボックスを作成したら、サブメールボックスを作成できます。これを実行するには、メールボックスを再度作成するか、またはサブメールボックスを作成します。サブメールボックスを作成するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**構成 (Configuration)**」を選択します。
2. 以下のいずれかの方法で、編集対象のメールボックスの構成データを開きます。

- 「検索 (Search)」セクションの「メールボックス名で検索 (By Mailbox Name)」フィールドに、編集するメールボックスの名前または名前の一部を入力して、「実行 (Go!)」をクリックします。
 - 「アルファベット (Alphabetical)」セクションで、メールボックスの先頭文字を選択するか、すべてのメールボックスのリストを表示するにはすべてを選択して、「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 選択可能なメールボックスのリストが開きます。サブメールボックスを作成するメールボックスの横の「サブメールボックスの作成 (Create sub-mailbox)」アイコンをクリックします。
 4. 「メールボックス: 名前 (Mailbox: Name)」ページで、親メールボックスが指定されています。ルート・メールボックスは、スラッシュ (/) によって示されません。
 5. 「名前」フィールドに、作成するメールボックスの名前を入力します。この名前は、アプリケーションでのメールボックスの識別に使用されます。
 6. 「説明」フィールドに、メールボックスの簡単な説明を入力して、「次へ」をクリックします。このフィールドは、メールボックスの説明に使用されます。このフィールドは、システムの他のリソースには使用されません。(これは必須フィールドです。)
 7. 「グループの割り当て (Assign Groups)」ページで、矢印を使用してグループを「選択したグループ (Selected Groups)」リストに追加し、「次へ」をクリックします。「選択したグループ (Selected Groups)」リストのすべてのグループにこのメールボックスへの権限が設定されます。最初の二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのグループが、「選択したグループ (Selected Groups)」リストに追加されます。「フィルターに使用する名前 (Filter by Name)」フィールドにグループ名の一部を入力して、「フィルター (Filter)」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。必須のグループはありません。ただし、管理者が MBI を使用してアクセスできるようにするには、Mailbox Browser Interface グループまたは Admin ユーザーにアクセス権を割り当てる必要があります。
 8. 「ユーザーの割り当て (Assign Users)」ページで矢印を使用して、「選択したユーザー (Selected Users)」リストにユーザーを追加します。「選択したユーザー (Selected Users)」リストのすべてのユーザーにこのメールボックスへの権限が設定されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのユーザーが「選択したユーザー (Selected Users)」リストに追加されます。「フィルターに使用する ID (Filter by ID)」フィールドにユーザー名の一部を入力して、「フィルター (Filter)」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。必須のユーザーはありません。ユーザーは、「アカウント (Accounts)」メニューから追加できます。
 9. 「次へ (Next)」をクリックします。
 10. 「確認」ページで、メールボックスの構成を確認し、「終了」をクリックします。

メールボックスに対するアクセス権

メールボックスのユーザーは、使用しているサービスまたはアダプター・コンポーネントおよび許可されている権限に基づいて、特定の機能にアクセスしたり、特定

の機能を実行したりできます。割り当てられる権限は、メールボックス・レベルで、対象のメールボックス内のすべてのメッセージに適用されます。

各権限は特定の機能にマップされています。

- 読み取り - ユーザーはメールボックスからメッセージを取得できます。
- 書き込み - ユーザーはメッセージをメールボックスに追加することができます。
- 表示 - ユーザーはメールボックスまたはメッセージを表示できます。
- 実行 - ユーザーはメールボックスにアクセスできます。
- 削除 - ユーザーはメールボックスからメッセージを削除できます。

注: デフォルトで、ユーザーにはすべての権限が割り当てられます。

権限と機能

コンポーネントが、ユーザーの代わりにメールボックスと対話します。各機能を実行するには、ユーザーは、示されている権限とアクセス権を持っている必要があります。コンポーネントが、適切な権限とアクセス権を持たずに機能を実行しようとすると、その操作は失敗します。

以下の表は、指定された機能の実行に必要な権限を示しています。

コンポーネント	機能	権限	アクセス権
アドバンスド・ファイル転送 (AFT)	メッセージをメールボックスに再生する	書き込み	メールボックス
Sterling Connect Direct Server アダプター	メールボックスから読み取る	読み取り	メールボックス
	メールボックスに書き込む	書き込み	メールボックス
FTP サーバー・アダプター	メールボックスにメッセージを追加する	書き込み	メールボックス
	メールボックスからメッセージを抽出する	読み取り	メールボックス
	サブメールボックスを表示する	表示	仮想ルート・サブメールボックスからすべてのメールボックス
	仮想ルート・メールボックスを表示する	表示	仮想ルート・メールボックス
	メールボックス実行アクセス権を持たずに仮想ルート・メールボックスを表示する	実行	MailboxLoginWithoutVirtualRootPermission
	仮想ルート・メールボックスにログインする	実行	仮想ルート・メールボックス
	メールボックス実行アクセス権を持たずに仮想ルート・メールボックスにログインする	実行	MailboxLoginWithoutVirtualRootPermission

コンポーネント	機能	権限	アクセス権
	メールボックスからメッセージを移動する	削除	移動元メールボックス
	メールボックスにメッセージを移動する	書き込み	移動先メールボックス
	メールボックスからメッセージを削除する	削除	メールボックス
メールボックス追加サービス	メールボックスにメッセージを追加する	書き込み	メールボックス
メールボックスのメールボックス削除サービス	サービスを使用する	実行	メールボックスのグローバル削除
メールボックス削除サービス	サービスを使用する	実行	メールボックスのグローバル削除
	メールボックスのグローバル削除なしにサービスを使用する	削除	影響を受けるすべてのメールボックス
メールボックス抽出開始サービス	メールボックスからメッセージを抽出する	読み取り	メールボックス
メールボックス照会サービス	サービスを使用する	実行	メールボックスのグローバル照会
	メールボックスのグローバル照会なしにサービスを使用する	表示	照会対象のすべてのメールボックス
メールボックス更新サービス	メールボックス内のメッセージを更新する	書き込み	メールボックス
Mailbox XAPI createMessage	メールボックス内にメッセージを作成する	書き込み	メールボックス
Mailbox XAPI beginExtractMessage	メールボックスからメッセージを抽出する	読み取り	メールボックス
SSH/SFTP サーバー・アダプター	メールボックスにメッセージを追加する	書き込み	メールボックス
	メールボックスからメッセージを抽出する	読み取り	メールボックス
	サブメールボックスを表示する	表示	仮想ルート・サブメールボックスからすべてのメールボックス
	仮想ルート・メールボックスを表示する	表示	仮想ルート・メールボックス
	メールボックス実行アクセス権を持たずに仮想ルート・メールボックスを表示する	実行	MailboxLoginWithoutVirtualRootPermission
	アクセス制御リスト (ACL) がアクティブな場合にログインする	実行	サーバー・アクセス権

コンポーネント	機能	権限	アクセス権
	仮想ルート・メールボックスにログインする	実行	仮想ルート・メールボックス
	メールボックス実行アクセス権を持たずに仮想ルート・メールボックスにログインする	実行	MailboxLoginWithoutVirtualRootPermission
	メールボックスにメッセージを移動する	書き込み	移動先メールボックス
	メールボックスからメッセージを削除する	削除	メールボックス
WebDAV	メールボックスにメッセージを追加する	書き込み	メールボックス
	メールボックスからメッセージを抽出する	読み取り	メールボックス
	メールボックスのオプションを取得する	実行	メールボックス
	URL のプロパティを取得する (PROFIND)	表示	メールボックス

メールボックスの構成の編集

このタスクについて

既存のメールボックスの説明とアクセス権の割り当てを編集するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**構成 (Configuration)**」を選択します。
- 以下のいずれかの方法で、編集対象のメールボックスの構成データを開きます。
 - 「**検索 (Search)**」セクションの「**メールボックス名で検索 (By Mailbox Name)**」フィールドに、編集するメールボックスの名前または名前の一部を入力して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。
 - 「**アルファベット (Alphabetical)**」セクションで、メールボックスの先頭文字を選択するか、すべてのメールボックスのリストを表示するにはすべてを選択して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。
- 選択可能なメールボックスのリストが開きます。編集するメールボックスの横にある「**編集**」ボタンをクリックします。
- 「**メールボックス: 名前 (Mailbox: Name)**」ページで、必要に応じて「**説明 (Description)**」フィールドを変更し、「**次へ**」をクリックします。(これは必須フィールドです。)
- 「**グループの割り当て (Assign Groups)**」ページで、矢印を使用してグループを「**選択したグループ (Selected Groups)**」リストに追加し、「**次へ**」をクリックします。「**選択したグループ (Selected Groups)**」リストのすべてのグループにこのメールボックスへのアクセス権が設定されます。最初の二重矢印をクリック

すると、選択可能なすべてのグループが、「選択したグループ (Selected Groups)」リストに追加されます。「フィルターに使用する名前 (Filter by Name)」フィールドにグループ名の一部を入力して、「フィルター (Filter)」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。必須のグループはありません。

6. 「ユーザーの割り当て (Assign Users)」ページで矢印を使用して、「選択したユーザー (Selected Users)」リストにユーザーを追加します。「選択したユーザー (Selected Users)」リストのすべてのユーザーにこのメールボックスへのアクセス権が設定されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのユーザーが「選択したユーザー (Selected Users)」リストに追加されます。「フィルターに使用する ID (Filter by ID)」フィールドにユーザー名の一部を入力して、「フィルター (Filter)」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。「次へ」をクリックします。必須のユーザーはありません。
7. 「確認」ページで、メールボックスの構成を確認し、「終了」をクリックします。

メールボックスのアクセス権の割り当て

個々のメールボックスに対するアクセス権は、個々のメールボックスの作成時に割り当てられます。グループまたはユーザーのアカウントの作成時にメールボックスに対するアクセス権を追加することも、メールボックスの作成後にメールボックスに対するアクセス権を追加するようグループを編集することもできます。

Sterling Connect:Direct Server アダプターおよび FTP サーバー・アダプターを使用して通信する取引パートナーには、アクセスを試みるメールボックスに対する適切なアクセス権が割り当てられた、アプリケーションのユーザー・アカウントが必要です。

メールボックスに対するアクセス権のユーザー・アカウントへの割り当て

このタスクについて

メールボックスをユーザー・アカウントに割り当てることができます。ユーザー・アカウントの作成時にこれを行うことも、メールボックスに対するアクセス権を追加するようユーザー・アカウントを編集することもできます。

手順

1. 「アカウント (Accounts)」メニューの「ユーザー・アカウント (User Accounts)」を選択します。「アカウント (Accounts)」ページが開きます。必要に応じて、新規ユーザー・アカウントを作成するか、既存のアカウントを編集できます。
2. 新規ユーザー・アカウントを作成するには、「作成 (Create)」セクションで、「新規アカウントの作成 (Create a new account)」の横の「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「ユーザー ID (User ID)」ページ内の各フィールドに値を入力して、「次へ」をクリックします。
4. 「グループ (Groups)」ページ内の各フィールドに値を入力して、「次へ」をクリックします。

5. 「アクセス権 (Permissions)」ページの「**選択可能 (Available)**」リストから、アクセス権を付与する 1 つ以上のメールボックスを「**割り当て済み (Assigned)**」リストに移動します。「**次へ**」をクリックします。
6. ユーザー・アカウントの更新を完了したら、「**保存 (Save)**」または「**終了**」をクリックします。

メールボックスに対するアクセス権のグループへの割り当て このタスクについて

メールボックスにグループ・アクセス権を割り当てると、新規ユーザーをそのグループに追加することによって、それらの新規ユーザーにアクセス権を動的に付与できるようになります。メールボックスに対するアクセス権をグループに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**アカウント (Accounts)**」メニューの「**グループ (Groups)**」を選択します。
2. 「アクセス権の割り当て (Assign Permissions)」ページで、アクセス権を付与するメールボックスを検索します。
3. グループの更新を完了したら、「**保存 (Save)**」または「**終了**」をクリックします。

ユーザーの Mailbox グループへの割り当て このタスクについて

Mailbox Browser Interface Users グループと Mailbox Administrators グループの 2 つの事前定義の Mailbox グループがあります。MBI を使用してメールボックスと対話するすべてのユーザーを Mailbox Browser Interface Users グループに追加する必要があります。メールボックスを管理するすべてのユーザーを Mailbox Administrators グループに追加する必要があります。Mailbox Administrators グループのサブグループとして Mailbox Browser Interface Users グループがあるため、ユーザーを別々にグループに追加する必要はありません。それぞれのグループの説明は、以下のとおりです。

- Mailbox Browser Interface Users グループ - このグループのユーザーには、Mailbox Browser Interface (MBI) ビジネス・プロセスおよびテンプレートへのアクセス権があります。メールボックスに対して、ファイルを追加したり抽出したりする外部または内部の取引パートナーをこのグループに配置する必要があります。
- Mailbox Administrators グループ - Mailbox Administrators グループに属するユーザーは、自動的に Mailbox Browser Interface Users グループにも属します。このため、ユーザーを Mailbox Administrators グループに追加することによって、そのユーザーには、明示的に Mailbox Browser Interface Users グループを割り当てる必要なく、Mailbox Browser Interface へのアクセス権が与えられます。ユーザー ID Admin は、デフォルトで、Mailbox Administrators グループに属しています。

これらのグループにユーザーを追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「アカウント (Accounts)」メニューの「ユーザー・アカウント (User Accounts)」を選択します。
2. 新規ユーザー・アカウントを作成するか、既存のアカウントを編集できます。
3. 新規ユーザー・アカウントを作成するには、「作成 (Create)」セクションで、「新規アカウントの作成 (Create a new account)」の横の「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 既存のアカウントを編集するには、名前を検索するか、またはリストから見つけます。「編集」アイコンをクリックします。
5. 「ユーザー ID (User ID)」ページ内の各フィールドに値を入力して、「次へ」をクリックします。
6. 「グループ (Groups)」ページで、「選択可能 (Available)」リストから Mailbox Browser Interface Users グループまたは Mailbox Administrators グループを「割り当て済み (Assigned)」リストに移動して、「次へ」をクリックします。
7. ユーザー・アカウントの更新を完了したら、「保存 (Save)」または「終了」をクリックします。

エクスポートしたメールボックス・ファイルの編集

このタスクについて

メールボックスをエクスポートした場合、作成される XML ファイルの Permissions セクションには RIGHTS タグが含まれます。権限の値を編集するには、以下の手順を実行します。

手順

1. エクスポートした XML ファイルで RIGHTS を検索します。
2. 以下の設定に従って、値を変更します。
 - 1 - EXECUTE (実行)
 - 2 - WRITE (書き込み)
 - 4 - READ (読み取り)
 - 8 = DELETE (削除)
 - 16 = VIEW (表示)
3. 当てはまる値を加算して、割り当てる値を決めます。例えば、読み取りと書き込みの権限の場合、値は $2 + 4 = 6$ になります。
4. 編集したファイルをインポートして、RIGHTS 設定をアクティブにします。

仮想ルートの作成

このタスクについて

メールボックス階層の表示可能性を制限できるようにするために、メールボックスはエンド・ユーザーに対しては相対パスとして表示され、管理者に対しては絶対パスまたはフル・パスで表示されます。この概念は、仮想ルート と呼ばれます。

Mailbox 追加 (Mailbox Add) サービスがメールボックス名で呼び出されると、そのメールボックス名が、ユーザー ID に関連付けられている仮想ルート・メールボッ

クスに追加され、メッセージの追加先とするべきメールボックスの絶対名が取得されます。メールボックスへの絶対パスが送信者に公開されることはありません。

Mailbox 照会 (Mailbox Query) サービスが呼び出された場合、ユーザーの仮想ルートの下位にあり、ユーザーがアクセス権を有しているメールボックスのみが検索されます。

これは、メールボックスへの絶対パスを公開したくない場合にセキュリティ上の理由として有用です。メールボックスのメンテナンスとしても、有益です。メールボックスの編成を変更した場合、仮想ルートが変更されることはないため、変更がユーザーに透過的になります。

新しい FTP サーバー・アダプターを使用する取引パートナーは、FTP セッションを実行するためには仮想ルート・メールボックスが必要です。

仮想ルートを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**仮想ルート (Virtual Roots)**」を選択します。
2. 「作成 (Create)」セクションで「**実行 (Go!)**」をクリックします。
3. 仮想ルートを作成するユーザー ID を指定して、「**次へ**」をクリックします。
「**フィルターに使用する ID (Filter by ID)**」フィールドにユーザー ID の一部を入力して、「**フィルター (Filter)**」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。
4. 指定したユーザー ID の仮想ルートにするメールボックスを指定して、「**次へ**」をクリックします。「**フィルターに使用する名前 (Filter by Name)**」フィールドにメールボックス名の一部を入力して、「**フィルター (Filter)**」ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。
5. 「**終了**」をクリックします。

仮想ルートの編集

このタスクについて

ユーザー ID の仮想ルートを変更できます。これによって、他のシステム・リソースが影響を受けたり、ユーザーがメールボックスと対話する方法が影響を受けたりすることはありません。ユーザー ID の仮想ルートを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**仮想ルート (Virtual Roots)**」を選択します。
2. 以下のいずれかの方法で、編集対象の仮想ルートを選択します。
 - 「**検索 (Search)**」セクションの「**ユーザー ID で検索 (By User ID)**」フィールドで、仮想ルートを変更するユーザー ID を入力して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。

- 「リスト (List)」セクションで、ユーザー ID の先頭文字を選択するか、すべての仮想ルートを表示するには「すべて (All)」を選択して、「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 編集する仮想ルートを特定して、「**選択 (Select)**」列の「**編集 (edit)**」をクリックします。
 4. 「ユーザー ID (User ID)」ページで「次へ」をクリックします。
 5. 「**メールボックス名 (Mailbox Name)**」を選択して、「次へ」をクリックします。
 6. 「終了」をクリックします。

メッセージの検索

Mailbox では、すべてのメールボックスでメッセージを検索できます。検索基準として、メールボックス、メッセージ名パターン、開始日時、終了日時、処理状況、およびメッセージ ID があります。

このタスクについて

検索を実行するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**メッセージ (Messages)**」を選択します。
2. 「**メッセージ管理 (Message Management)**」ページで、検索基準を指定して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。すべてのフィールドのデフォルト値は「すべて (All)」です。メールボックスの名前の一部を入力して、「**フィルター (filter)**」ボタンをクリックすると、名前でもフィルタリングしてリストを短くできます。
3. 一致するメッセージのリストが開きます。以下の表は、各列の内容を示しています。

列見出し	説明
選択 (Select)	メッセージを編集する際のアイコンが含まれます。
名前	メッセージ名。デフォルトで、ハイパーリンクで表示されます。 注: 抽出可能カウントが 0 の場合、ハイパーリンクからメッセージが開くことはありません。 ハイパーリンクを解除して、メッセージ名をテキストとして表示するには、『 テキストでのメッセージ名の表示 』を参照してください。
ID	メールボックスによって割り当てられているメッセージ ID。
作成日時	メッセージが作成された日付および時刻。
サイズ	メッセージのサイズ (KB 単位)。
メールボックス	メッセージのメールボックスの場所。
抽出ポリシー (Extract Policy)	アカウントに関連付けられている抽出ポリシー。

列見出し	説明
ポリシー値 (Policy Value)	抽出ポリシー (Extract Policy) に関連付けられている値。
BP によってロ ック済み (Locked by BP)	ビジネス・プロセスによってメッセージがロックされていることを示しま す (メッセージが存在する場合)。

テキストでのメッセージ名の表示

メッセージ名からハイパーリンクを外して、メッセージ名をテキストのみで表示することができます。

このタスクについて

メッセージ名からハイパーリンクを外して、メッセージ名をテキストのみで表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューの「**XSLT (XSLT)**」を選択します。
2. 「**検索 (Search)**」パネルで「MBIList」と入力し、「**実行 (Go!)**」をクリックします。
3. 「**ソース・マネージャー (source manager)**」アイコンをクリックします。
4. 「**編集**」アイコンをクリックして、MBIlist ファイルを開きます。
5. 加えた変更の説明を入力します。
6. 以下を含む action エlement を見つけて、削除します。

```
<a href=
/mailbox/mybp/FormToXML?bpDest=MBIDocView&MessageId={MessageId}&
&filename={MessageName}&bresolverTimeout=360 target= _blank > </a>
```

変更を加えたら、「次へ」をクリックします。

7. 変更を加えたバージョンを選択して、「**保存 (Save)**」をクリックします。
8. 画面上の情報をレビューして、「**ビジネス・プロセスに対して使用可能にする (Enable for Business Process)**」チェック・ボックスが選択されていることを確認し、「**終了**」をクリックします。
9. MBI を開いて、「**メッセージ名 (Message Name)**」リンクが無効になっていることを確認します。

重複メッセージの抑止

このタスクについて

Mailbox では、従来のファイルシステム (UNIX など) と同様のモデルを使用することによって、重複メッセージを抑止できます。このモードでは、メッセージがメールボックスに追加されると、同じ名前を持つメッセージが既にメールボックスに存在していないかがシステムによって判別されます。存在する場合は、新しいメッセージが追加される前に古いメッセージが削除されます。古いメッセージに関

連付けられている文書は削除されません。その文書 (内容) を参照しているメッセージのみが削除されます。文書は、相関検索およびアーカイブ検索によって引き続き取得することができます。

重複メッセージを抑止するには、以下の手順を実行します。

手順

1. インストール・フォルダー > **properties** フォルダ > **mailbox.properties.in** ファイルに進みます。
2. エントリー `disallowDuplicateMessages=false` (デフォルト) を `disallowDuplicateMessages=true` に変更します。
3. `setupfiles.sh / .cmd` を実行します。
4. アプリケーションを再始動して、`mailbox.properties.in` ファイルに加えた変更を適用します。

注: DB2 on z/OS では、メッセージ名は最大 100 文字です。その他すべてのプラットフォームでは、255 文字までのメッセージ名がサポートされます。

/DeadLetter での複製メッセージの許可

このタスクについて

FTP サーバー・アダプターは、障害が起こったアップロードを DeadLetter メールボックスに配置します。障害が起こったアップロードをモニターするために、これらの複製メッセージを保持しておく一方で、システムのその他の箇所では複製を許可したくない場合があります。 `mailbox.properties.in` ファイルの `disallowDeadLetterDuplicateMessages` プロパティは、Deadletter メールボックスのみで複製を許可し、メールボックス全体のプロパティである `disallowDuplicateMessages` をオーバーライドします。

/Deadletter メールボックスのみで複製メッセージを許可するには、以下の手順を実行します。

手順

1. テキスト・エディターを使用して、`install_dir/properties/mailbox.properties.in` ファイルを編集します。
2. `disallowDuplicateMessages` プロパティの値を **true** に設定します。例:
`disallowDuplicateMessages=true`

注: `disallowDeadLetterDuplicateMessages` パラメーターのデフォルト値は保持します。例: `disallowDeadLetterDuplicateMessages=false`

3. 構成の変更を適用します。ご使用のオペレーティング・システムに基づいて、該当するコマンドを入力します。
 - `setupfiles.sh` (UNIX)
 - `setupfiles.cmd` (Windows)
4. アプリケーションを再始動して、`mailbox.properties.in` ファイルに加えた変更を適用します。

メッセージの抽出性の更新

メッセージがメールボックスに追加されたら、抽出ポリシーまたはポリシー値を更新できます。

このタスクについて

メッセージの抽出性を更新するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**メッセージ (Messages)**」を選択します。
2. 検索基準を指定して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。すべてのフィールドのデフォルト値は「すべて (All)」です。
3. 抽出ポリシー値を変更するメッセージを特定して、「**編集 (Edit)**」をクリックします。対象のメッセージの「**情報 (Info)**」ページが開きます。
4. 新しい抽出ポリシーとポリシー値を指定します。次の表は、指定可能なポリシーとポリシー値を示しています。

ポリシー	説明
抽出可能	無制限に抽出できるか、または抽出できません。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• No – メッセージを抽出できません。• Yes – ファイルを抽出できる回数に制限はありません。
抽出可能期限 (Extractable Until)	所定の日付まで無制限に抽出できます。これは、価格リストやカタログなど、公開の時間に制約のある文書の場合に適しています。 有効値は、任意の将来の日付です。
抽出可能カウント (Extractable Count)	メッセージを特定の回数まで抽出できます。このポリシーは、ファイルを制限回数まで使用する自動プロセスの場合に適しています。これがデフォルト・ポリシーです。 有効な値は任意の整数です。デフォルトは、1 です。 注: ユーザーによるキャンセルなどの <code>IOException</code> が抽出中に発生した場合、抽出可能カウントを増加するビジネス・プロセスが開始されます。100 Kb よりも小さいファイルの場合、ファイル全体が既に伝送されているため、このビジネス・プロセスは開始されません。メッセージを再度抽出可能にするには、抽出可能カウントを手動で増加する必要があります。

5. 「**終了**」をクリックします。

注: 抽出性の設定は、AS2、FTP、Conect:Direct などさまざまな通信プロトコルにおいて、メッセージの表示可能性と抽出性にさまざまな影響を及ぼします。例えば、デフォルトで、FTP サーバー・アダプターでは、yes/no の抽出可能ポリシー値を使用して、抽出性の値を yes に指定してメッセージが追加されます。このポリシーによって、Mailbox が従来のファイル・システムとよく似た動作を行うようになります。AS2 を通して追加されるメッセージでは、N 回の抽出可能ポリシー値が使用され、抽出性の値が 1 に指定されます。このポリシーで

は、AS2 メッセージのトランザクション処理がサポートされます。ポリシー設定を変更する前に、ユーザーがメッセージにアクセスする方法について認識しておく必要があります。

自動ルーティングのためのメッセージの再送信

このタスクについて

メッセージがメールボックスに追加されたら、抽出ポリシーまたはポリシー値を更新できます。自動ルーティングのためにメッセージを再送信するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「**デプロイメント (Deployment)**」メニューから、「**メールボックス (Mailboxes)**」>「**メッセージ (Messages)**」を選択します。
2. 検索基準を指定して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。すべてのフィールドのデフォルト値は「すべて (All)」です。
3. 再送信するメッセージを特定して、「**編集 (Edit)**」をクリックします。対象のメッセージの「**情報 (Info)**」ページが開きます。
4. 「**自動ルーティングのためにメッセージを再送信する (Resubmit message for automatic routing)**」を選択して、「**次へ**」をクリックします。
5. 「**終了**」をクリックします。

メッセージのアーカイブ

アプリケーションでは、ビジネス・プロセスおよび文書についてのアプリケーションの全体的なアーカイブ・プロセスの一環として、メールボックスのメッセージのアーカイブがサポートされます。メールボックスのメッセージは、内部的にはビジネス・プロセス文書として表されるため、メッセージがアーカイブされたり、アクセス不能になったりしないように保護するために、Mailbox で取られる予防措置がいくつかあります。

メールボックスのメッセージ、および Mailbox 追加 (Mailbox Add) サービスの実行を担うビジネス・プロセスは、アーカイブされないように保護されており、対応するメールボックスのメッセージが削除されるまでアプリケーションのデータベース表に留まります。これらは、Mailbox 削除 (Mailbox Delete) サービスまたは Mailbox 予約削除 (Mailbox Scheduled Delete) サービスによって削除できます。この保護によって、必要な限りメッセージを使用できるようになります。メールボックスからメッセージが削除されると、そのメッセージは、構成されているアーカイブの存続期間が終了して次のアーカイブが実行されるときに、ビジネス・プロセスとともにアーカイブされます。

メッセージのリストア

このタスクについて

ビジネス・プロセスとその関連メッセージがアーカイブされた後、そのアーカイブをリストアして、ビジネス・プロセスと関連メッセージを監査することができます。メッセージをリストアするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「操作 (Operations)」メニューの「アーカイブ・マネージャー (Archive Manager)」を選択します。
2. 「リストア・マネージャー (Restore Manager)」セクションで、「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「コマンド・ライン (Command Line)」フィールドに、restore_wrapper.sh スクリプトの場所とデータのリストア先の場所を入力します。
4. 「作業ディレクトリー (Working Directory)」フィールドで、install_dir/bin ディレクトリーを指定します。ここで、install_dir は、アプリケーションのインストール先ディレクトリーです。次に、「実行 (Go!)」をクリックします。これによって、アーカイブされているすべてのビジネス・プロセスがリストアされます。メールボックスのメッセージを追加または抽出したプロセスについては、関連するメッセージがビジネス・プロセスとともにリストアされます。

ビジネス・プロセスとの関連の検索

特定のメールボックス・メッセージにアクセスしたビジネス・プロセスを判別するために関連検索を実行できます。メールボックス・パス、メッセージ ID、メッセージ名、および作成日で検索できます。

このタスクについて

関連を検索するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ビジネス・プロセス」メニューから、「拡張検索 (Advanced Search)」>「**相関 (Correlation)**」を選択します。
2. 使用する検索基準に基づいて、以下のいずれか、すべて、または組み合わせを指定して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。

検索基準	名前	値
メールボックス・パス	Mailbox_MailboxPath	監査するメッセージのメールボックス ID
メッセージ ID	Mailbox_MessageID	監査するメッセージのメッセージ ID
メッセージ名	Mailbox_MessageName	監査するメッセージの名前
作成日時	Mailbox_CreateDateTime	監査するメッセージの作成日時

「**相関検索結果 (Correlation Search Results)**」ページが開き、一致したビジネス・プロセスの数が示されます。見つかったビジネス・プロセスの数を表す数値をクリックできます。「**複数文書 (Multiple Document)**」ページが開き、一致した文書のリストが左のペインに示されます。

3. 「**相関検索 (Correlation Search)**」ページで、「**ロケーション (Location)**」リストから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ライブ・テーブル (Live Tables)** - ライブ (アクティブな) インスタンスの相関を表示します。
 - **アーカイブ・テーブル (Archive Tables)** - アーカイブされているインスタンスの相関を表示します。

- リストア・テーブル (Restore Tables) - オフライン・ロケーションからリストアしたインスタンスの相関を表示します。
4. 文書名をクリックして、内容を表示します。
 5. 「ステータス (Status)」列の「情報 (Info)」をクリックして、文書の詳細を表示します。

注: DB2 z/OS プラットフォームでは、メールボックス・イベントの相関項目は、90 文字に切り捨てられます。DB2 z/OS 相関項目のメッセージ名は末尾の余分な文字が切り捨てられますが、MailboxPath 相関項目では先頭の余分な文字が切り捨てられます。

リストアしたメッセージの監査

アーカイブしたビジネス・プロセスのリストア後は、中央検索機能を使用してメッセージを監査できます。メールボックス・パス、メッセージ ID、メッセージ名、および作成日でメッセージを検索できます。

このタスクについて

リストアしたメッセージを監査するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ビジネス・プロセス (Business Process)」メニューから、「モニター (Monitor)」>「拡張検索 (Advanced Search)」>「相関 (Correlation)」を選択します。
2. 「相関検索 (Correlation Search)」ページで、「タイプ (Type)」に「すべて (ANY)」を指定し、「ロケーション (Location)」に「リストア・テーブル (Restore Tables)」を指定します。使用する検索基準に基づいて、以下のいずれか、すべて、または組み合わせを指定して、「実行 (Go!)」をクリックします。

検索基準	名前	値
メールボックス・パス	Mailbox_MailboxPath	監査するメッセージのメールボックス ID
メッセージ ID	Mailbox_MessageID	監査するメッセージのメッセージ ID
メッセージ名	Mailbox_MessageName	監査するメッセージの名前
作成日時	Mailbox_CreateDateTime	監査するメッセージの作成日時

「相関検索結果 (Correlation Search Results)」ページが開き、一致したビジネス・プロセスの数が示されます。

3. 見つかったビジネス・プロセスの数を表す数値をクリックします。「複数文書 (Multiple Document)」ページが開き、一致した文書のリストが左のペインに示されます。
4. 文書名をクリックして、内容を表示します。

EDIINT アクティビティのモニター

Mailbox を使用する AS2 転送の AS2 EDIINT トラッキングをモニターできます。この情報は、AS2 が Mailbox を使用するよう構成されている場合にのみ適用されます。

このタスクについて

注: EDIINT 検索機能では、MDN が指定されている文書のトラッキングのみが意図されています。このため、AS2 が MDN を要求しないように構成されている場合、またはパートナーが MDN を受け取らないことを選択した場合は、トラッキング情報は EDIINT 検索には表示されません。MDN は、送信者によって制御されるため、パートナーが MDN を要求しない場合、この検索を使用してパートナーの文書情報を表示することはできません。

手順

1. 「ビジネス・プロセス (Business Process)」メニューから、「拡張検索 (Advanced Search)」>「EDIINT (EDIINT)」を選択します。
2. 「EDIINT トランザクション検索 (EDIINT Transaction Search)」ページで、検索する AS2 メッセージを指定します。以下の基準のいずれか、すべて、または組み合わせを指定して、「実行 (Go!)」をクリックします。

検索基準	説明
契約 (Contracts)	契約に関連付けられている AS2 トランザクションを検索します。
ステータス (Status)	特定のステータスにある AS2 トランザクションを検索します。
タイプ (Type)	AS1 または AS2 トランザクションを検索します。
開始日	転送が開始した日付に基づいてトランザクションを検索します。
終了日	転送が終了した日付に基づいてトランザクションを検索します。

3. 詳細を表示するには、メッセージ ID をクリックします。「EDIINT トランザクション詳細 (EDIINT Transaction Detail)」ページが開きます。以下のフィールドは、Mailbox に固有のものであります。

フィールド	説明
メールボックス	トランザクションに関連付けられているメールボックス
メールボックス・メッセージ ID (Mailbox Message ID)	メッセージに割り当てられたメッセージ ID
メールボックス・メッセージ名 (Mailbox Message Name)	メールボックス内のメッセージの名前

デッド・レター・メールボックスの内容と状況の表示

このタスクについて

デッド・レター・メールボックスには、通常のメールボックスには追加できなかったメッセージが保管されます。デッド・レター・メールボックスは、/DeadLetter としてルート・メールボックスの下に配置されます。以下を使用して、メッセージに関する情報を表示できます。

- デッド・レター・メールボックスの内容の表示。
- メッセージ発信元のユーザー ID、意図されていた元の宛先、失敗の原因などの状況報告書の表示。『ビジネス・プロセスとの関連の検索』を参照してください。

Mailbox を使用するように AS2 取引パートナーを構成 このタスクについて

Mailbox には、EDIINT AS2 プロトコルとのすぐに使用できる統合が備わっています。このセクションでは、Mailbox を使用するように AS2 プロファイルを構成する方法を説明します。AS2 ウィザードを使用して AS2 プロファイルを構成するとき、Mailbox を使用するために選択する必要のある 2 つのフィールドがあります。

Mailbox を使用するように AS2 取引パートナーをセットアップするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「取引パートナー (Trading Partner)」メニューの「AS2 (AS2)」を選択します。
2. 以下の 2 つのうちのいずれかの方法で AS2 ウィザードを開始します。
 - 「作成 (Create)」セクションで「実行 (Go!)」をクリックして、新しい取引プロファイルを作成します。
 - 既存の取引プロファイルを編集するには、「リスト (List)」セクションで「実行 (Go!)」をクリックして、対象のプロファイルで「編集 (Edit)」をクリックします。
3. 「新規 ID: AS2 構成タイプ: ID (New Identity: AS2 Configuration Type: Identification)」ページで、「メールボックスにメッセージを保管する (Store Messages in Mailbox)」を選択します。
4. 「AS2 構成タイプ・メールボックス (AS2 Configuration Type Mailbox)」ページで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルトの受信/送信メールボックスを使用します。AS2/Name/Inbound および AS2/Name/Outbound の形式で 2 つのメールボックスを作成します。Name は「AS2 構成タイプ: ID (AS2 Configuration Type: Identification)」ページで取引パートナーに付けられた名前です。
 - 既存の親メールボックスを選択します。ここでは、作成しているメールボックスを組み込む親メールボックスを選択できます。メールボックスを組み込まない場合は、スラッシュ (/) を選択します。これによって *Parent Mailbox/Inbound* および *Parent Mailbox/Outbound* の形式で 2 つのメールボックスが作成されます。Parent Mailbox は、作成しているメールボックスを組み込むために選択したメールボックスです。

障害が発生したメッセージはすべて /DeadLetter メールボックスに配置されません。

システム障害発生後の AS2 メールボックスの問題のトラブルシューティング

Sterling B2B Integrator AS2 Edition のシステム障害発生後には、プロデューサー・メールボックスから削除されなかったプロデューサー・メッセージを解決する必要があります。

このタスクについて

以下のステップを実行して、システム障害発生後にプロデューサー・メールボックスから削除されなかったプロデューサー・メッセージを解決します。システム管理者は、ステップ 1 から始めて、プロデューサー・パートナーの関与なしに解決できる場合があります。それ以外の場合、プロデューサー・パートナーはステップ 2 から開始します。

手順

1. システム管理者として、メッセージがルーティングされているかどうかを確認します。
 - a. 「デプロイメント (Deployment)」 > 「メールボックス (Mailboxes)」 > 「メッセージ (Messages)」 からファイルのメッセージ ID を見つけます。
 - b. メッセージ ID による拡張検索を使用して、Sterling B2B Integrator AS2 Edition 内を検索します。
 - c. 対象のメッセージ ID についての結果が見つかったら、メッセージのステータスは、「Failed. Replay the Arrived File (失敗しました。着信したファイルを再生してください。)」となっているはずですが、これによって、プロデューサー・パートナーの関与なしに問題を解決できます。
 - d. 対象のメッセージ ID についての結果が見つからなかった場合は、プロデューサー・パートナーに連絡して、ステップ 3 の手順に従ってファイルの名前を変更してもらいます。
2. プロデューサー・パートナーとして、メッセージがルーティングされているかどうかを確認します。
 - a. 自分のプロデューサー・メールボックスにログインして、メッセージの名前をメモします。
 - b. 元のファイル名でアクティビティーを検索します。
 - c. 元のファイル名についての結果が見つかったら、そのステータスは、「Failed. Replay the arrived file (失敗しました。着信したファイルを再生してください。)」となっているはずですが。
 - d. 元のファイル名についての結果が見つからなかった場合は、ステップ 3 に進み、ファイルの名前を変更します。
3. プロデューサー・パートナーとして、メッセージの名前を変更します。名前の変更によって、メッセージがルーティングされます。
 - a. ファイルを追加したプロデューサー・パートナー・ユーザーとして、Sterling B2B Integrator AS2 Edition にログインします。
 - b. メッセージが含まれるメールボックス・ディレクトリーにナビゲートします。

- c. まったく同じファイル名を使用してメッセージの名前を変更します。名前変更コマンドは、プロトコルやクライアントによって異なります。例えば、FTP および SFTP のコマンド・ラインは、以下のようになります。

```
rename filename filename
```

システム障害発生後の AS2 メールボックス・ファイル・ルーティング・ステータスの確認

Sterling B2B Integrator AS2 Edition のシステム障害発生後には、ルーティングされていないファイルがある可能性があるため、ステータスを確認する必要があります。

このタスクについて

フェイルオーバーが発生した場合、ファイルは以下のステータスになる可能性があります。

- ルーティング済み
- 失敗
- ルーティング中 (Routing)
- 経路の確認中 (Determining Routes)

プロデューサー・ファイルは処理済みであっても、メールボックスに入っている場合と入っていない場合があります。ファイルのステータスを識別するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ビジネス・プロセス (Business Processes)」 > 「モニター (Monitor)」 > 「拡張検索 (Advanced Search)」 > 「ビジネス・プロセス (Business Processes)」を選択します。
2. 右側の「ビジネス・プロセスを使用した検索 (Search Using Business Processes)」セクションの下にある「ビジネス・プロセス (Business Processes)」を選択してから、以下のビジネス・プロセスを複数選択します。
 - EDIINTParse
 - HTTPAsyncSend
 - HTTPSyncSend
 - MailboxAS2Add
 - MailboxAS2SendAndProcessAsyncMDN
 - MailboxAS2SendAndProcessNoMDN
 - MailboxAS2SendAndProcessSyncMDN
 - MailboxAS2SendAsyncMDN
 - MailboxAS2SendAsyncMDNSpawner
 - MailboxAS2SendNoMDN
 - MailboxAS2SendNoMDNSpawner
 - MailboxAS2SendSyncMDN
 - MailboxAS2SendSyncMDNSpawner

3. 「状態 (State)」 > 「すべて (ALL)」を選択します。
4. 「ステータス (Status)」 > 「エラー (Error)」を選択します。
5. 検索対象の期間を「開始日 (Start Date)」の「開始日 (From)」と「終了日 (To)」で指定して、「実行 (Go)」をクリックします。
6. 検索結果として、障害が起こったビジネス・プロセスのリストが表示されます。障害が起こった各ビジネス・プロセスの詳細を表示するには、それらのビジネス・プロセスの ID をクリックします。
7. 障害が起こったサービスの詳細を表示するには、ページをナビゲートしていきます。
8. 障害が起こったサービスの「インスタンス・データ (Instance Data)」列の情報リンクをクリックして、「インスタンス・データ (Instance Data)」画面を表示します。
9. 「インスタンス・データ (Instance Data)」画面で、現在のメッセージは、その上のメッセージ ID のリストにおける反復回数を示しています。このメッセージ・リストにおける反復回数を取得します。これが、ファイルの特定に使用するメッセージ ID です。
10. 「デプロイメント (Deployment)」 > 「メールボックス (Mailboxes)」 > 「メッセージ (Messages)」を選択して、1 つ前のステップで取得したメッセージ ID の値を入力し、「実行 (Go)」をクリックします。
11. これによって、そのメッセージ ID に関連付けられているメッセージ名 (ファイル) が返されます。このファイルを送信したプロデューサー・パートナーに連絡して、このファイルの再送信を依頼します。
重要: 障害が起こったメッセージの後続メッセージがすべて適切にリカバリーされていることを確認します。後続メッセージのステータスを確認し、必要に応じてリカバリーします。

メールボックスの削除

このタスクについて

Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスを使用すると、1 つまたは複数のメールボックスを、関連付けられているサブメールボックス、メッセージ、仮想ルート、ルーティング・ルール、およびアクセス権とともに削除することができます。このサービスは、メールボックスとそれに関連付けられているすべてのものを完全にかつ恒久的に削除するよう設計されています。Mailbox 削除 (Mailbox Delete) サービスは、メールボックス内のメッセージのみを削除する点において異なります。

アプリケーション・インターフェースを使用して対話的にメールボックスを削除することも、ビジネス・プロセスで Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスを使用してビジネス・プロセスの決定点でメールボックスを削除することもできます。

メールボックスを対話的に削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「デプロイメント (Deployment)」 > 「メールボックス (Mailboxes)」 > 「構成 (Configuration)」に進みます。

2. 「すべてをリスト (List ALL)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「削除」アイコンをクリックします。
4. 削除されたもののレポートを表示するオプションがあります。Mailbox メールボックス削除 (Mailbox Delete Mailbox) サービスを使用してメールボックスを削除することもできます。

Mailbox Browser Interface (MBI)

Mailbox Browser Interface の構成

このタスクについて

MBI は、セキュア・ネットワーク内または企業ネットワークの DMZ に配置できる Web アプリケーションです。

MBI をセキュア・ネットワーク内で実行する場合、構成は必要ありません。HTTP サーバー・アダプター構成 (MBI HTTP サーバー・アダプターという) がアプリケーションに備わっているため、アプリケーションと同じネットワーク上のクライアントは Mailbox Browser Interface にアクセスできます。

MBI を DMZ で実行するには、リモート周辺サーバーを使用する HTTP サーバー・アダプターを構成する必要があります。

着信 URL 要求は、事前構成されたビジネス・プロセスを実行する HTTP サーバー・アダプターから渡されます。これらのビジネス・プロセスでは、さまざまな Mailbox サービスが使用され、最初の要求元のブラウザーに結果が返されます。

アプリケーションに周辺サーバーを構成したら、「HTTP 接続のプロパティ (HTTP Connection Properties)」ページの「周辺サーバー名 (Perimeter Server Name)」リストで、HTTP サーバー・アダプターの構成にその周辺サーバーの名前を使用できます。

DMZ で実行されるように MBI を構成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. DMZ に周辺サーバーをセットアップします。
2. アプリケーションで新規周辺サーバーを構成します。

周辺サーバーの構成で指定するポートは、HTTP Listen ポート (取引パートナーが接続する必要がある) であってはなりません。この HTTP Listen ポートは後の段階で指定します。

3. リモート周辺サーバーが稼働していることを確認します。
4. MBI HTTP サーバー・アダプター構成を複製します。
 - a. 「管理(Administration)」メニューから、「**デプロイメント (Deployment)**」>「**サービス (Services)**」>「**構成 (Configuration)**」を選択します。
 - b. 「サービス名 (Service Name)」フィールドに「MBI HTTP」と入力して、「**実行 (Go!)**」をクリックします。

- c. 「検索結果 (Search Results)」 ページで、MBI HTTP サーバー・アダプターに対応するエントリーを見つけて、「**コピー (Copy)**」をクリックします。
 - d. アダプターに新しい固有の名前を付けて、「**次へ**」をクリックします。
 - e. 「**HTTP Listen ポート (HTTP Listen Port)**」に、HTTP クライアント (通常は取引パートナー) が接続する必要があるポートを指定します。リモート周辺サーバーがインストールされているコンピューター上の別のアプリケーションでこのポートを使用してはいけません。同一のリモート周辺サーバー・コンピューター上の同一のポートで listen するように 2 つの HTTP サーバー・アダプター構成を設定することはできません。
 - f. 「**周辺サーバー名 (Perimeter Server Name)**」リストから、使用する特定のリモート周辺サーバーに対応する周辺サーバー (前に構成した) の名前を選択します。この名前は、ノードと名前 (指定したもの) の形式になっています。「**保存 (Save)**」をクリックします。
 - g. 「**確認**」 ページで、すべてのパラメーターが指定されていることを確認します。「**ビジネス・プロセスに対してサービスを使用可能にする (Enable Service for Business Process)**」 チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
 - h. 「**終了**」をクリックします。
5. リモート周辺サーバーが実行されているコンピューターに対するアクセス権がある場合は、そのコンピューターにログインして、以下のコマンドを実行します。

```
netstat -an | grep <httpListenPort>
```

ここで、<httpListenPort> は、前に指定したポートです。LISTEN という行が見つかったら、HTTP サーバー・アダプターでは外部クライアントからの要求を処理する準備ができています。

6. HTTP ブラウザーから以下の URL を参照して、HTTP サーバー・アダプターが listen しており、Mailbox Browser Interface が適切に構成されていることを確認します。

```
http://<host>:<httpListenPort>/mailbox
```

ここで、<host> は、リモート周辺サーバーが実行されているコンピューターの IP アドレスまたはホスト名で、<httpListenPort> は、前に指定したポートです。ダイアログが開き、Mailbox Browser Interface を使用するためのユーザー名とパスワードの入力を求められます。このダイアログが開かず、ブラウザーにエラーが発生した場合は、<httpListenPort> が listen されていることを確認してください。これが listen されている場合は、他のアプリケーションがこのポートを予約していないことを確認します。これを実行するには、HTTP サーバー・アダプターを無効にして、このポートが listen されていないことを確認します。このポートが listen されている場合は、このポートにバインドしているアプリケーションを見つけ、これをシャットダウンします。または、別の HTTP Listen ポートを選択して、やり直します。

取引パートナーの MBI への接続 このタスクについて

取引パートナーが MBI を使用できるように、以下の手順を実行します。

手順

1. 各取引パートナーに新規ユーザー・アカウントを作成します。
2. 取引パートナーを **Mailbox Browser Interface Users** グループに割り当てます。
3. 各取引パートナーに Web サーバーの URL を提供します。

- MBI アプリケーションが、セキュア・ネットワーク内にある場合は、以下の URL を使用します。

`http://<SIhost>:<MBIport>/mailbox`

ここで、<SIhost> は、アプリケーションの Web アプリケーションがインストールされているコンピューターの IP アドレスまたはホスト名で、<MBIport> は、MBI HTTP サーバー・アダプターが listen しているポートです。

<MBIport> を検索するには、以下の手順を実行します。

- a. 「管理 (Administration)」メニューから、「デプロイメント (Deployment)」>「サービス (Services)」>「構成 (Configuration)」を選択します。
 - b. 「サービス名 (Service Name)」フィールドに、「MBI HTTP」と入力して、「実行 (Go!)」をクリックします。
 - c. 「検索結果 (Search Results)」ページで、MBI HTTP サーバー・アダプターに対応するエントリーを見つけて、そのアダプターの名前をクリックします。
 - d. その HTTP Listen ポートが <MBIport> です。
- DMZ で実行されるように MBI をインストールした場合は、以下の URL を使用します。

`http://<host>:<httpListenPort>/mailbox`

ここで、<host> は、リモート周辺サーバーが実行されているコンピューターの IP アドレスまたはホスト名で、`httpListenPort` は、前に指定したポートです。ダイアログが開き、Mailbox Browser Interface を使用するためのユーザー名とパスワードの入力を求められます。このダイアログが開かず、ブラウザーにエラーが発生した場合は、<httpListenPort> が listen されていることを確認してください。これが listen されている場合は、他のアプリケーションがこのポートを予約していないことを確認します。これを実行するには、HTTP サーバー・アダプターを無効にして、このポートが listen されていないことを確認します。このポートが listen されている場合は、このポートにバインドしているアプリケーションを見つけ、これをシャットダウンします。または、別の HTTP Listen ポートを選択して、やり直します。

4. 各取引パートナーに初期ユーザー ID とパスワードを与えます。

注: 取引パートナーは、ログイン後に「ヘルプ (Help)」をクリックすることによって、MBI の使用に関する情報を取得できます。

MBI でのパスワードの変更

このタスクについて

アプリケーションでは、外部認証がサポートされています。ユーザーを外部ユーザーとしてセットアップすると、パスワードは、外部 LDAP リポジトリに格納されます。この場合、アプリケーションではパスワードは所有されないため、パスワードを変更することはできません。外部ユーザーの場合、Mailbox Browser Interface では、「パスワード変更 (Change Password)」オプションは表示されません。

Mailbox のパスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「Mailbox Browser Interface (Mailbox Browser Interface)」メニューの「パスワード変更 (Change Password)」を選択します。
2. 「パスワード (Password)」フィールドに現在のパスワードを入力します。
3. 「新規パスワード (New Password)」フィールドと「パスワードの再入力 (Retype Password)」フィールドに新しいパスワードを入力して、「サインイン (Sign In)」をクリックします。

注: パスワードは 6 文字以上の長さにする必要があり、以下のいずれの文字も使用できません。! @ # % ^ * () + ? ,] [{ } | ; > < " &

MBI でのアクセス権の保護

このタスクについて

この手順によって、複数のユーザーが 1 つのコンピューターを共有している場合に、各ユーザーが適切なアクセス権を確保できるようになります。

ユーザー・セッション間で以下の手順を実行する必要があります。

手順

1. アプリケーションからログオフします。
2. ブラウザー・キャッシュをクリアします。
3. ブラウザー・セッションを閉じます。

メールボックスでのメッセージの検索

このタスクについて

Mailbox にログインしたときに開く最初のページが「検索 (Search)」ページです。このページには、ナビゲーション・バーの「検索 (Search)」または「ホーム (Home)」をクリックすることによってもアクセスできます。「検索 (Search)」ページでは、検索のアクセス権を持ついずれかまたはすべてのメールボックスでメッセージを検索できます。

メールボックスを検索するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「Mailbox Browser Interface (Mailbox Browser Interface)」メニューの「メールボックスの検索 (Mailbox Search)」を選択します。
2. 以下の表の説明に従って、検索基準を指定します。

フィールド	説明
メールボックス	検索するメールボックスを指定するか、または検索のアクセス権があるすべてのメールボックスを検索するには「すべて (All)」を選択します。必須。 検索をフィルタリングするには、メールボックス・パス・ルックアップを使用します。 <ol style="list-style-type: none">1. 「フィルター (Filter)」テキスト・ボックスにパス名の一部を入力して、その下のリストのサイズを小さくします。2. 対象のパス名をクリックして、「メールボックス」フィールドに移植します。
メッセージ ID	検索するメッセージ ID。
メッセージ名	検索するメッセージ名またはその一部。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用できます。
開始 (From)	検索範囲の開始日時。 日付の形式は yyyy-mm-dd です。時刻の形式は hh:mm:ss AM/PM です。
終了 (To)	検索の終了日時範囲。 日付の形式は yyyy-mm-dd です。時刻の形式は hh:mm:ss AM/PM です。

3. 「実行 (Go!)」をクリックします。「メールボックス検索結果 (Mailbox Search Results)」ページが表示され、基準に一致したメッセージのリストが示されます。

注: 「名前」、「ID」、「作成日時」、「サイズ」、または「メールボックス」のいずれかの列見出しをクリックすることによって検索結果をソートできます。

4. メッセージに対して以下のいずれかのアクションを実行できます。
 - メッセージ名をクリックして、メッセージを抽出せずにブラウザ・ウィンドウにメッセージを表示します。
 - メッセージに関連付けられている「抽出 (Extract)」アイコンをクリックして、メッセージを抽出します。

検索結果

「検索結果 (Search Results)」ページでは、「名前」、「ID」、「作成日時」、「サイズ」、または「メールボックス」のいずれかの列見出しをクリックすることによって検索結果をソートできます。「検索結果 (Search Results)」ページには、以下の情報が含まれています。

列	説明
抽出	クリックすると、使用しているコンピューターにメッセージ (ファイル) がダウンロードされます。
名前	メッセージの名前。クリックすると、ブラウザ・ウィンドウにメッセージが表示されます。

列	説明
ID	メールボックスによって割り当てられているメッセージ ID。
作成日時	メッセージが作成された日付および時刻。
サイズ	メッセージのサイズ (バイト単位)。
メールボックス	メッセージが含まれているメールボックスの名前。
抽出ポリシー (Extract Policy)	<p>メッセージの抽出性の管理に使用されるポリシー。</p> <ul style="list-style-type: none"> 回数 (Count) - メッセージは、特定の回数 (「ポリシー値 (Policy Value)」列で指定) 抽出できます。 期限 (Until) - メッセージは、指定された日付 (「ポリシー値 (Policy Value)」列で指定) まで抽出できます。 抽出可能 (Extractable) - 「ポリシー値 (Policy Value)」が Yes の場合、メッセージは制限なく抽出できます。「ポリシー値 (Policy Value)」が No の場合、メッセージは抽出できません。
ポリシー値 (Policy Value)	「抽出ポリシー (Extract Policy)」で指定したポリシーの値を指定します。

メールボックスへのメッセージの送信 始める前に

Mailbox Browser Interface で送付できるファイル・サイズの上限は 2G です。2G を超えるファイルを送付するには、*myfilegateway* を使います。ブラウザによっては、*myfilegateway* でのファイル転送に別途上限を設けている場合があります。*myfilegateway* をお持ちでない場合、もしくはご使用のブラウザが大きなファイルの転送をサポートしていない場合は、2G を超えるサイズのファイル送信には FTP か SFTP を使用する必要があります。

このタスクについて

メッセージをメールボックスに送信するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「Mailbox Browser Interface (Mailbox Browser Interface)」メニューの「メールボックスへの送信 (Mailbox Send)」を選択します。
- 以下の表の説明に従って、送信基準を指定します。

フィールド	説明
メールボックス	<p>メッセージの送信先のメールボックス。必須。</p> <p>検索をフィルタリングするには、メールボックス・パス・ルックアップを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「フィルター (Filter)」テキスト・ボックスにパス名の一部を入力して、その下のリストのサイズを小さくします。 対象のパス名をクリックして、「メールボックス」フィールドに移植します。

フィールド	説明
ファイル名	送信するファイルのパスおよびファイル名。 「参照 (Browse)」をクリックして、メッセージが配置されているディレクトリーにナビゲートします。必須。 名前に以下の文字を使用することはできません。 \ / : * ? " < > % ! 注: DB2 on z/OS では、メッセージ名は最大 100 文字です。その他すべてのプラットフォームでは、255 文字までのメッセージ名がサポートされます。
ファイルの名前変更 (Rename File)	このオプションは、ファイルまたはメッセージの名前を変更する場合に使用します。 名前に以下の文字を使用することはできません。 \ / : * ? " < > % !

3. 「実行 (Go!)」をクリックします。

ファイルが以下の場合	結果
正常に追加された	「送信 (Send)」ページが開きます。
正常に追加されなかった	エラー・メッセージが表示されます。

注: メールボックス重複抑止がオンになっている場合、新規メッセージと同じ名前の既存メッセージは削除され、新規メッセージが追加されます。メールボックス重複抑止がオフになっている場合、同じ名前のメッセージを追加できます。

抽出なしでのメールボックスからのメッセージの表示 このタスクについて

メールボックスからメッセージを表示するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「Mailbox Browser Interface (Mailbox Browser Interface)」メニューの「メールボックスの検索 (Mailbox Search)」を選択します。
- 以下の表の説明に従って、検索基準を指定します。

フィールド	説明
メールボックス	検索するメールボックスを指定するか、または検索のアクセス権があるすべてのメールボックスを検索するには「すべて (All)」を選択します。必須。
メッセージ ID	検索するメッセージ ID。
メッセージ名	検索するメッセージ名またはその一部。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用できます。
開始 (From)	検索範囲の開始日時。日付の形式は yyyy-mm-dd です。時刻の形式は hh:mm:ss AM/PM です。
終了 (To)	検索の終了日時範囲。日付の形式は yyyy-mm-dd です。時刻の形式は hh:mm:ss AM/PM です。

3. 「実行 (Go!)」をクリックします。

- 表示するメッセージを特定し、メッセージ名をクリックします。

メールボックスからのメッセージの抽出 このタスクについて

メールボックスからメッセージを抽出するには、以下の手順を実行します。

手順

- 「Mailbox Browser Interface (Mailbox Browser Interface)」メニューの「メールボックスの検索 (Mailbox Search)」を選択します。
- 以下の表の説明に従って、検索基準を指定します。

フィールド	説明
メールボックス	検索するメールボックスを指定するか、または検索のアクセス権があるすべてのメールボックスを検索するには「すべて (All)」を選択します。必須。
メッセージ ID	検索するメッセージ ID。
メッセージ名	検索するメッセージ名またはその一部。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用できます。
開始 (From)	検索範囲の開始日時。日付の形式は <i>yyyy-mm-dd</i> です。時刻の形式は <i>hh:mm:ss AM/PM</i> です。
終了 (To)	検索の終了日時範囲。日付の形式は <i>yyyy-mm-dd</i> です。時刻の形式は <i>hh:mm:ss AM/PM</i> です。

- 「実行 (Go!)」をクリックします。
- 抽出するメッセージを特定し、「抽出 (Extract)」列で、関連付けられているアイコンをクリックします。

注: 「抽出 (Extract)」アイコンをクリックすると、ダウンロードをキャンセルした場合でも、ポリシー値の数が 1 つ減ります。

メッセージが以下の場合	結果
抽出可能	ファイルの保存を求めるプロンプトが出されます。
抽出不可	抽出に失敗し、エラー・メッセージが表示されます。「戻る」をクリックして、前のページに戻ります。

- ご使用のブラウザの「最新表示 (Refresh)」をクリックしてページを最新表示にし、更新された抽出値を確認します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the IBM® Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing

Legal and Intellectual Property Law

IBM Japan Ltd.

19-21, Nihonbashi-Hakozakicho, Chuo-ku

Tokyo 103-8510, Japan

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

当該のサンプル・プログラムの複製物のそれぞれ、またはそのあらゆる部分、あるいはすべての派生的創作物にも、次のように著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2015. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. 2015.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、 Intel (ロゴ)、 Intel Inside、 Intel Inside (ロゴ)、 Intel Centrino、 Intel Centrino (ロゴ)、 Celeron、 Intel Xeon、 Intel SpeedStep、 Itanium、 および Pentium は、 Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、 Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、 Windows、 Windows NT および Windows ロゴは、 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、 米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべてのJava 関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、 米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、 同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO (ロゴ)、 Ultrium および Ultrium (ロゴ) は、 米国およびその他の国における HP、 IBM、 および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、 Connect:Direct[®]、 Connect:Enterprise[®]、 Gentran[®]、 Gentran[®]:Basic[®]、 Gentran:Control[®]、 Gentran:Director[®]、 Gentran:Plus[®]、 Gentran:Realtime[®]、 Gentran:Server[®]、 Gentran:Viewpoint[®]、 Sterling Commerce[™]、 Sterling Information Broker[®]、 および Sterling Integrator[®] は、 Sterling Commerce[®]、 Inc.、 IBM Company の商標です。



プログラム番号:

Printed in Japan